







# 伝え合おう 聞き合おう ～肯定的な言葉を用いた活動を通して～

01  
C

所 属	名古屋市立植田北小学校	実践者	大島 素代
対 象	小学1年生	時間数	12時間
場 所	教室	実践教科	道徳・音楽・生活・図画工作・学級活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりが自信と責任をもって相手に伝えたり、相手の話に親しみをもって聞いたりすることができる。</li> <li>・いろいろな国があることを知り、それらの国と肯定的に出会おうとする。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
		<b>学級の旗をみんなで作ろう</b>	
	1	1 旗ってなあに？ ・みんなが笑顔になるような1年2組だけの旗をつくる。	 【作成した学級の旗】
	2	2 その考えもいいね！ ・どんな色やデザインがよいか、みんなで考えを出し合う。	
	3-6	3 みんなの考えを取り入れて。 ・みんなの考えをできるだけ多く取り入れるために話し合う。 ・自分たちが考えた旗を絵の具や折り紙でつくる。	
		<b>すてきな国旗がたくさんあるね</b>	
	7	1 こんなにたくさんの国があるなんてびっくり！ ・いろいろな国旗を印刷したプリントから、好きな国旗を選んで画用紙に描き写す。	 【エジプトを選んだ子どもの作品】
	8-9	2 自分の選んだ旗はどこの国だろう？ ・選んだ国旗の国名を知る。 ・音楽で学習した「ひのまる」の曲に合わせて自分の国旗を紹介する歌をつくる。	
	10-12	3 誰がどの国の旗を持っているのかなあ。 ・互いの国旗や国名を紹介し合い、国旗のミニカードを交換するゲームを行う。 ・ゲームで交換したミニカードを学習シートに貼り、国名を思い出して記入する。思い出せない国名は、交換した友達に再度聞き直す。 ・活動を振り返り、プリントに感想を記入する。	
			 【国名を記入した学習シート】
成 果	<p>ひとりひとりが気に入った国旗を選択して活動を行ったことで、全員が自分の国旗について自信と責任をもって友達に伝えることができた。</p> <p>友達の国旗を見たり国名を聞いたりすることでいろいろな国があることに気付くことができた。また、互いに肯定的な感想をもつことができた。</p> <p>創作、歌づくり、ゲームを取り入れることで、楽しみながら互いの考えを伝えたり聞いたりすることができた。</p>		
課 題	<p>それぞれの国について、身近な衣食住などの情報をもっと詳しく知らせたり調べさせたりすることができれば、さらに興味をもって活動することができた。</p>		
備 考			

# 日本とガーナ、地球のために「今自分にできること」

02  
A

所 属	大口町立大口西小学校	実践者	永田 和久 (G)
対 象	小学2年生	時間数	7時間
場 所	2年3組 教室	実践教科	学級活動・道徳
ねらい	○ ガーナの農村の生活を考え、日本の生活との違いを知る。 ○ 地球の危機せまる現状を知り、地球にやさしく生きるため「今自分にできること」を考える。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	第1回 (1-2 限)	<b>もしもガーナの(農村)生活だったら！？</b> ① アイスブレイク(4つのコーナー) ② ガーナの農村の暮らしと村人の幸せを知る。(スライドショー) ③ 「もしもガーナの(農村)生活だったら」をイメージする。※1 イメージできることを付箋紙に書き、グループで模造紙にまとめる。 ④ ガーナ(農村)と日本の生活の、どちらがよいかを考える。※2 「ガーナ」「どちらかといえばガーナ」「どちらかといえば日本」「日本」 の4択で選び、理由とともに付箋紙に書く。その後、模造紙にまとめる。	<b>※1 テーマ</b> ① 農作物の自給 ② 肉・魚を捕る ③ 電気はなく自然光や火 ④ 自然が多い ⑤ 機械はなく手作り ⑥ 大勢で米作り ⑦ 水道はなく井戸 ⑧ ゲームはなく自然遊び <b>模造紙まとめ</b>
	第2回 (3-4 限)	<b>もしも地球の資源がなくなったら！？</b> ① アイスブレイク(私は誰？動物の名前当て) ② 地球の真実を知り、「資源」とはどんなもののことを考える。 「今の自分たちの生活をこのまま続けると、いずれ地球の資源は足りなくなる」を知り、身の回りの物は何からできているか意見を出し合う。 ③ 「もしも地球の資源がなくなったら」をイメージする。 「資源がなくなったら」中心に、イメージをグループで模造紙に派生。 ④ 自分たちの生活の、何が資源をなくす原因なのかを考える。 「資源がなくなる」中心に、思いつくことをグループで模造紙に派生。	
	第3回 (5限)	<b>地球にやさしいのはどっち！？</b> ① アイスブレイク(チュイ語で自己紹介) ② ガーナ(農村)か日本の生活の、どちらが地球に優しいかを考える。 「ガーナ」「どちらかといえばガーナ」「どちらかといえば日本」「日本」 で選び、理由とともに付箋紙に書く。その後、模造紙にまとめる。※3	<b>※2 対比表</b> 
	第4回 (6-7 限)	<b>今自分にできること</b> ① アイスブレイク(地球の真実クイズ) ② 「地球に良いこと(行動)」「地球に悪いこと(行動)」を考える。 考えを付箋紙に書き、グループで模造紙(対比表)にまとめる。 ③ 地球のために「今自分にできること」を考える。 物語「私にできること」を聞き、自分できることを書き出し、選択する。	<b>※3 対比表</b> 
成 果	ガーナの生活に興味津々で、全員が4択で理由を考えて書けていた。「資源」を理解し、地球のこと、自分にできることもまとめることができていた。各回の最後の振り返りシートには、多くの児童が目いっぱい時間を使い、夢中で書いていた。子どものもっている力を感じることができた。		
課 題	第4回で「自分にできること」を考え、できそうなことを選択するところまで行っただが、子どもたちの行動変容を知ることは難しかった。週1回のペースで行ったが、前回のことを忘れていた児童もいて、振り返りの時間を設けた。各回の間隔を、短くして行うとよかったと思った。		
備 考	出典: JICA 中部／平成26年度開発教育指導者研修(実践編)第1回資料2「今、地球で起こっている30の真実」 辻信一監修「私にできること 地球の冷やし方」2005年／ゆっくり堂		

所 属	名古屋市立大杉小学校	実践者	服部 秀子 (G)
対 象	小学校2年生	時間数	12時間
場 所	教室	実践教科	道徳・学級活動
ねらい	日本とは異なるガーナの文化や習慣を知り、それらの体験を通して楽しさを味わい、他者との違いを肯定的に受け止めようとする態度を養う。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1・2	参加型の基礎を培うⅠ ○「より良い話し方を考えよう」 ① 良い話し方・悪い話し方を考える。〈ブレインストーミング〉 ② 良い話し方・悪い話し方を体験する。〈ロールプレイ〉 ③ 振り返り。(気付いたこと・今後やってみたいこと)	
	3・4	参加型の基礎を培うⅡ ○「より良い聞き方を考えよう」 ① 良い聞き方・悪い聞き方を考える。〈ブレインストーミング〉 ② 良い聞き方・悪い聞き方を体験する。〈ロールプレイ〉 ③ 振り返り。(気付いたこと・今後やってみたいこと)	
	5・6	チョコレートを通してガーナとの繋がりを知る ○「みんなのチョコレートはどうやってできてるの？」 ① 写真や動画で紹介。(クイズ形式) ② ガーナのチョコレートを食べる。 ③ 「みんなの毎日は、みんなの力だけでできてる？」について考え、自分の生活を振り返る。	パワーポイント資料 ガーナ産チョコレート
	7・8	ガーナの文化を知り、違いを楽しむ ○「ガーナ」ってどんな国？ ① 写真や動画で紹介 (クイズ形式) ② チュイ語で挨拶と自己紹介をする。(名前も曜日別のものにする) ③ 頭に物を乗せて運んでみる。リレーで競争。 ④ ガーナの楽器や衣装に触れる。 ⑤ 「人とちがうことっていけないこと？」について考え、自分の生活を振り返る。	パワーポイント資料 ガーナ BOX 児童の生まれた曜日
	9・10	ジャンケンがなくても仲良く過ごせる方法に気付く。 ○「ジャンケンって何のため？だれのため？」 ① 「世界のジャンケンをやってみよう！」〈アイスブレイキング〉 ② どんな時にジャンケンをしてきたか考える。〈ブレインストーミング〉 ③ ガーナにはジャンケンがないことを知る。 ④ ジャンケンと話し合いの良い点を考える。〈ブレインストーミング〉 ⑤ 具体的な場面をジャンケンと話し合いに割り振る。〈対比表〉 ⑥ 振り返り。	アメリカとフィリピンのジャンケン ガーナの子どもの写真
	11・12	違いから生まれるものに気付き、その良さを味わう。 ○「ちがっても…いいね」 ① 動物当て YES/NO クイズ〈アイスブレイキング〉 ② みんな同じの世界・みんな違う世界の良い所・悪い所を考え、発表する。〈ブレインストーミング〉 ③ どの世界に暮らしたいかを選び、その理由を考える。	
成 果	世界との繋がりと、文化の違い、多様性の価値に気付かせたことで、児童1人1人の世界観を広げることができた。また、ガーナを肯定的に捉え、ガーナに行ってみたくて願う児童が多く出てきたことが何よりの成果だったと思う。		
課 題	他国との「大きな違い」は肯定的に受け入れることができて、身近な友達の「小さな違い」には否定的に捉えてしまう。児童がいたことから、まだ気付きから行動に至っていないと感じた。多様性について考える機会を、今後も継続的に設ける必要がある。		
備 考			

所 属	三重県伊賀市立友生小学校	実践者	中川 幸
対 象	小学3年生	時間数	5時間
場 所	3年3組教室	実践教科	人権
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いを尊重する気持ちを育てる。</li> <li>・自分も大切にされているということを実感する。</li> <li>・自分の感情をコントロールし、協力して活動することができる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>なりきり自己紹介</b> ・友だちになりきって自己紹介(他己紹介)をしよう。 ① 呼ばれたい名前と好きな食べ物を各自で紙に書く。 ② 二人一組になり、呼ばれたい名前と好きな食べ物について、エピソードを加えて紹介しあう。 ③ ②で紹介しあった相手になりきってグループで自己紹介をする。 ④ テーマを変えて同じ活動を行う。	6人グループで行う。  他己紹介をすることは伝えずに①②の活動を行う。
	2	<b>大切にしている物や事</b> ・自分が大切にしている物や事を伝え合おう。 ① 自分が大切にしている物や事について各自リストアップする。 ② 班で読み回し、共感や興味を持った物事にマークを付ける。 ③ 「聞きたい」というマークが1番多く付いている物事についてグループで発表しあう。	6人グループで行う。
	3	<b>生き物パズル「協力」「考える」</b> ・グループや学級で譲り合い協力してパズルを仕上げよう。 ① アイスブレイキングを行い、4人ずつのグループを作る。 ② 4枚で一つの動物ができるパズルをバラバラにして、各グループに4ピースずつ配る。 ③ 他のグループとピースを交換してパズルを仕上げる。 ④ 活動を振り返り、今度は6ピース一組のパズルで活動を行う。	4人グループで行う。 〈ルール〉 ・しゃべらない ・あげるのは良いが取ってはいけない。 ・全員が活動に参加する。 ※上記以外、細かいルールを決めない。
	4・5	<b>学級にとって大切な物や事</b> ・もっといごちのよい学級にするために自分たちができることを考えよう。 ① 学級にとって大切な物や事を各自付箋に書き出す。 ② 全員で模造紙に貼り付け、分類する。 ③ もっといごちのよい学級にするために自分たちができることを考える。	6人グループで行う。 KJ法
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型の学習方法を取り入れることで、一人ひとりがいきいきと活動に参加することができた。</li> <li>・全員が活動に参加したという実感を得ることができた。</li> <li>・受け止められる体験を通して自尊感情を高めることができた。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3までは活動を通して気づきがあり行動に変化が見られたが、4では気づきにつながる活動が無く、行動を振り返って考えることができなかった。</li> <li>・自分に関わる出来事と重ねて考えることができるような課題を設定するべきであった。</li> </ul>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの個性を把握しておらず、普段の様子を基にした子どもの変化に気づくことができなかった。</li> <li>・1から5までの期間があきすぎて、気づきを次回の活動に活かすことができなかった。</li> </ul>		

# 10歳のありがとう！！

05  
D

所 属	日進市立香久山小学校(愛知県)	実践者	山崎 恭兵
対 象	小学校 4 年生	時間数	45 分×9
場 所	日進市立香久山小学校	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界の子どもたちの多様な暮らしぶりや学校の様子を知り、世界に関心をもつ。</li> <li>・ 世界の子どもたちの状況を知ることを通して、自分たちの当たり前をふりかえる。</li> <li>・ 10歳まで生きられるということが当たり前ではないことに気づかせる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	①	<b>【フィリピンと日本のあることないこと】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介する。</li> <li>・ フィリピンの紹介をする。</li> <li>・ フィリピンの地理を学ぶ。</li> <li>・ フィリピンの食文化を知る。</li> <li>・ 実際に行ってみた感想を伝える。</li> <li>・ エンディングムービーを観る。</li> <li>・ 感想を書く。</li> </ul>	PowerPoint を使用
	②	<b>【すべての子どものしあわせのために大切なこと・必要なもの】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦争や貧困など困難な状況で生きる世界の子どもについて知る。</li> <li>・ 「子どもの権利」について知り、権利を奪われた子ども達に共感的になる。</li> <li>・ すべての子どもの幸せのために大切なこと、必要なこと、自分にできることを考える。</li> </ul>	「私たちの地球と未来活用マニュアル」参照  子どもの権利条約の全文のコピー
	③～⑧	<b>【二分の一成人式準備】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合唱の練習に取り組む。</li> <li>・ 群読の練習に取り組む。</li> <li>・ 自分史を作成する。</li> <li>・ 自分の夢を考える。</li> </ul>	
	⑨	<b>【二分の一成人式本番】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始めの挨拶</li> <li>・ 群読</li> <li>・ 合唱</li> <li>・ 自分史と夢の発表</li> <li>・ 親との手紙交換</li> <li>・ 終わりの挨拶</li> </ul>	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの児童が異なる文化について関心をもち、今の自分たちが幸せな状況であることに気づかせることができた。また、家族に対して、感謝の気持ちを持たせることができた。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークショップの活動に慣れていなかったため、作業に時間がかかったこと。資料内容の理解が十分ではない児童がいたこと。振り仮名をふる、補足説明をするなどし、支援していきたい。</li> </ul>		
備 考	参考文献:「私たちの地球と未来活用マニュアル」(公益財団法人 愛知県国際交流協会) 平成 25 年度・平成 26 年度 開発教育指導者研修 報告書及び資料(JICA 中部・NIED) ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 第 3 版(開発教育協会)		

# チョコレートの来た道



06  
G

所 属	名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会	実践者	岡本 晶子
対 象	小学5年生(109 名)	時間数	2時間
場 所	表山小学校・体育館	実践教科	講座
ねらい	①身近な存在のチョコレートがどこで、どのようにして作られているか知る。 ②チョコレートが生産される裏側に、児童労働の問題があることを知る。 ③フェアトレードについて知る。自分たちができることを考える。		
実践内容	時間	プログラム	備 考
	前半 15 分	挨拶・自己紹介・WSの約束確認 【アイスブレイク】地球ボールを落とさないで！ みんなで円陣パス 【グループ分け】絶滅危惧種の生き物でチーム分け	＜約束＞ みんな同じ立場・みんな で考える 人の意見をよく聞く。非 難しない。否定しない。
	10 分	【アクティビティ①チョコレートはどこから来るの？】 ・チョコレートの原料あて ・チョコカード並べ替え→生産過程の描かれたカード 10 枚の並べ替え	＜準備物＞ ・ボール 2 つ ・絶滅危惧種動物カード ・カカオの生産過程写真 ・白地図・シール ・児童労働の新聞記事 ・貧困カード ・チョコを知らない子手記 ・模造紙 ・A4の紙 ・マーカーペン ・DVD ・PP
	30 分	【アクティビティ②チョコレートを作っている国、食べている国】 ・グループごとにチョコレートの材料ができる国ベスト5、 チョコを食べる国5つを出し合い、白地図上にシールを貼る ・チョコを食べている国と作っている国の違いに注目！ グループで感じたことを話し合い書く→全体共有	
	後半 15 分	【子どもの仕事と児童労働の違いを知る】 ①お手伝いと児童労働の違い ②新聞記事を読む ③「チョコレートを知らない子ども」を読む ④児童労働の写真を見る ⑤児童労働 三択クイズ 680万人・ 6800 万人・1 億 6800 万人	
	10 分	【アクティビティ③どうしたら貧困から抜け出せる？】 ・みんなに質問(今日帰る家はある？その家に屋根はある？きれいな 水は飲める？夕飯はありそう？朝起きたら仕事に出かける？) ・貧困カード グループごとに実施→全体共有	
	20 分	【フェアトレードについて知る】・紙芝居 【まとめ】 ・「私にできること」の紹介 ・小俣中学の DVD 歌(No More Cry)の紹介 ・まとめ(世界中がつながっている、命もつながっている)	
	10 分	【振り返り】	
成 果	感想から、自分と世界とのつながりに気づき、自らにとって当り前の生活を見直す機会となったのではない かと思う。すぐに行動に移そうとする子もあり、うれしかった。クラスを超えてグループ分けをし、普段接す る機会の少ない子とも一緒に作業できるようにしたことで、コミュニケーション能力を養う場ともなった。		
課 題	人数が多かったためグループ分けをしても、1 グループ約 10 名と多く、意見交換がしにくいように感じた。 グループごとの意見の出具合にも差ができ、全体共有に向かう時間の折り合いをつけることが難しかった。 意見を引き出す問いかけの仕方、盛り上げりにメリハリを与えるスキルを今後得ていきたい。		
備 考			



# 絵本から始まる参加型～ちがいを豊かに～

07  
C

所 属	岐阜県可児市立今渡北小学校	実践者	青山 岳史
対 象	小学5年生	時間数	4時間
場 所	教室	実践教科	道徳・学活
ねらい	①人は無意識のうちに偏った見方をしてしまう場合があることを知り、②多数派・少数派の気持ちを考える活動を通して、③ちがいは豊かさにつながることに気づき、④出会った人とのちがいを受け入れ、肯定的に捉えて関わることのできる心を育てる。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>人が初めて出会うものにもつ感じ方の違いに気づく</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「キラキラ」を読み、自分が出会う異質なものに対して、人は偏った見方をもつ場合があることに気づく。</li> <li>性別に対する見方について考える。【ブレンストーミング】</li> <li>その見方が、対象となる全ての子に共通するか考える。</li> <li>これまでの生活の中で、自分がもっていた見方に気づく。</li> </ul>	『キラキラ』 (フレーベル館) 
	2	<b>多数派・少数派の気持ちを考える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>多数派・少数派ゲームを行いそれぞれの立場を経験する。</li> <li>それぞれの立場で感じたことを交流する。</li> <li>偏った見方が態度や行動に現れたときの様子を振り返る。</li> <li>今から自分にできる「考え方」を宣言する。</li> </ul>	ERIC 国際理解教育センター発行『人権教育ファシリテーターハンドブック』
	3	<b>人は誰でも違いをもって生きていることを知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「ぼくのものごたたり あなたのものがたり」を読む。</li> <li>「わたし」と「あなた」の違いに気づく。【対比表】</li> <li>「ちがい」がある世界とない世界を考える。【派生図】</li> <li>「ちがい」があることのよさを共有する。</li> </ul>	『ぼくのものごたたり あなたのものがたり』(岩崎書店) 
	4	<b>「ちがいは豊かさ」につながることを学ぶ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本「ちがいを豊かに」を読む。</li> <li>ちがいを豊かさにつなげるためのスキルを学ぶ。</li> <li>グループになり、対話を通して人のよさを見つける。</li> <li>自分とちがう相手に出会ったときの行動宣言を交流する。</li> </ul>	□傾聴のスキル □質問のスキル
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本から導入を行ったことにより、集中した雰囲気での授業を始めることができた。</li> <li>参加型の活動を多く取り入れた事で、全員が参加しながら授業を行う事ができた。</li> <li>事実や身近な事から考え、今後の自分に活かそうとする児童が多く見られた。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた時間の中で、子どもたちが高い価値まで気づき、行動の変容を促すようなファシリテーターの発問や言葉を精選していく必要がある。</li> <li>学んだことを広げて考え、今後の生活で活かせるような機会をつくりたい。</li> </ul>		
備 考			

# 世界を知ろう!自分を知ろう!多様性を楽しもう!

08  
C

所 属	名古屋市立稲葉地小学校	実践者	中川 朋子
対 象	小学5年生	時間数	4時間
場 所	教室	実践教科	総合的な時間
ねらい	○ 世界の多様性を知り、世界に関心をもつ。 ○ 自分の価値観を振り返り、異なるものでも間違いではないことを理解する。 ○ 違いを生かす社会について考え、実現のために必要なことを見つける。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>様々な世界と肯定的に出会う</b> <b>「世界の国々に親しもう」</b> ・知っている国名を出し合う。 ・地図で場所を確認する。 ・教師が提示した国を地図から探す。 <b>「世界の地域の分け方を理解しよう」</b> ・世界を6つの地域に分け、前時に出された世界の国が、どの地域に属するか、確認する。	グループ     わたしたちの地球と未来活用マニュアル2 グループ
	2	<b>「世界の多様性を知ろう」</b> ・6つの地域についてのクイズに挑戦する。 ・友達に教えてあげたいおもしろ情報を選び、発表する。  <b>「日本を振り返ろう」</b> ・日本を紹介するためのクイズを考え、情報を共有する。 ・活動を振り返る。	グループ     グループ ギャラリー方式
	3	<b>違いは豊かさだ</b> <b>「自分の“当たり前”を比較しよう」</b> ・日本の当たり前と世界の当たりの違いを知る。 <b>「違うものを受け入れなかった人たちの思いを知ろう」</b> ・歴史的事実を知り、共有する。 ・自分と違うものを認めないとどうなるか、考える。	わたしたちの地球と未来活用マニュアル2   グループ 派生図
	4	<b>「多様性を認める社会のよさや豊かさについて考えよう」</b> ・自分とは違う考えや方法を受け入れるとどうなるか、考える。 ・多様性を認める社会にするためにできることを考える。 ・これまでの活動を振り返る。	派生図 各自
成 果	○ 世界の多様性に触れ、世界への関心を高めることができた。 ○ 他国を知ること、自分の固定概念を振り返ることができた。 ○ 「違い」を肯定的に受け止め、多様性を認め合う社会の重要性を理解することができた。		
課 題	▲ 学んだことを行動に移し、それを持続するための工夫が必要である。 ▲ 時間配分や進行のテンポが難しく、時間がかかりすぎた活動があった。		
備 考			



# なぜ勉強をするのか

09  
D

所 属	佐屋小学校	実践者	加藤 未来
対 象	小学5年生32名	時間数	5時間
場 所	教室	実践教科	総合(国際理解)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の現状を知り、自分のイメージとの違いを認識する</li> <li>・勉強する意義を考え、自分を見つめ直し、勉強する意欲を高める</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>【海外を知る】</b> ① タイ、カンボジアクイズ	・スライドを用いる
	2	① タイ、カンボジアクイズ ・クラスの子達が学年の子達にスライドを使って、クイズをする ② <b>ランキング</b> 自分の大切なもの ・自分の大切なものを付箋に書き、グループで発表する ③ <b>ランキング</b> タイの大切なもの	・ランキング形式 ・付箋を用いて、グループ発表
	3	<b>【海外の学校を知る】</b> ① タイ、カンボジアの学校を比べて、気がついたこと ・国によって発展したところと発展していないところがある ・学校に行けない現状を知る ② <b>写真を見て、予想</b> 「ぼくは～～しています」 ・同じ年代の子が働いていて、学校にいけないことを知る	・対比表 ・フォトランゲージ (カンボジアの子どもの仕事をしている写真を用いる) ・討論 ・派生図 ・ギャラリー方式
	4	<b>【なぜ勉強をするのか】</b> ① <b>討論</b> 自分は勉強しないことはうれしいかうれしくないか ② <b>もしもこんな国だったら</b> 勉強しない国、勉強する国どうなる？ ・勉強しない国、する国グループに分かれて、グループで話し合う ・他のグループと共有 ・どう思ったかを全体で発表	・Y 座標 ・O か条
	5	<b>【勉強するにはどうしたらいいのか】</b> ① <b>振り返り・未来予想</b> 今までの自分の勉強状況、自分が勉強したらどうなるのか ② <b>本音トーク</b> 勉強をしたほうがいいのに、なぜしないのか ③ 勉強をするためにはどうしたらいいのかをグループで考える	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は海外について関心をもち、自分のイメージとの違いを認識することができた。</li> <li>・様々な手法を使うことによって、全員が主体的に関わることができ、楽しんで学んでいた。</li> <li>・勉強に対しての自分の本音を伝えながら、勉強する意義があることを強く感じ、これから自分が勉強するためにはどうしたらいいのかを考えることができた。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に思いをもち続けることが難しく、教師の声かけや今一度振り返ることが必要である。</li> <li>・学年全体で行うことは、時間がとられることや活動が制限されるということから困難であったが、学年全体で行って、広げていきたい。</li> </ul>		
備 考	・第2時は、体育館にて学年全体で行っている。		

所 属	名古屋市立表山小学校		実践者	大島 風花
対 象	小学5年生		時間数	50時間
場 所	教室、体育館、コンピュータ室 等		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	外部講師授業や施設訪問などの体験活動を通して、世界の文化や現状を知り、世界の豊かな多様性を感じるとともに、貧困や人権、環境といった問題に気付く。それらを自分にも関係する問題として捉え、自分に何ができるかを仲間と共に考えて、行動にうつすことができるようになる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【一学期 ～世界とこんにちは～】 1. クラスのみんなとこんにちは（価値観ビンゴゲーム）		中日新聞コラム「地球の子どもたち」 名古屋市環境サポーター  JICAウェブサイト
	2-3	2. 世界の同じ年頃の子を生活を調べよう		
	4-6	3. 「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ （ハンガーバンケット、セヴァン・スズキさんのスピーチ、今世界で起きていること）		
	7-13	4. JICA中部 なごや地球ひろば 訪問 & 調べ学習 （企画展「世界の子どもたち、青年海外協力隊体験談、展示案内&見学）		
	14-20	【二学期 ～世界とつながるわたしたち～】 1. 多様な世界に出会おう ① インドネシアの果てまでイッテQ！ ② 「グリーンコンシューマー＆フェアトレード」ワークショップ ③ 「チョコレートのかたまり」ワークショップ ④ 「サバンナの子どもたち」外部講師授業		パワポ、写真(教員私物) 名古屋市環境サポーター 〃 宮嶋 英一先生(写真家)
	21-26	2. 多様性の中から問題を見つけよう ① インドネシアと日本、アフリカと日本の違いを見つけよう！ （違っていい多様性と、違ってはおかしい多様性） ② 私の当たり前＝世界の当たり前？！多様だから豊かな世界！ ③ 「認められない多様性」が「人権」「貧困」の問題につながっている！		
	27-29	3. わたしと世界のつながりを考えよう ① 「貧しい」＝かわいそう？ 今、日本が鎖国すると？ ② 世界の課題に私たちも関わっている？！		
	30-33	4. わたしたちにできることはなんだろう ① 「安心してらせる」子を増やすために、できることを考えよう！ ② 表山フェスティバルでできること		
	34-44	【三学期 ～未来に向けて～】 1. 今できることをしよう （全校に対する体験型の発表、書き損じはがき・ペットボトルキャップ集め）		『私たちの地球と未来』 派生図、KJ法、貧困の輪  ポップコーン、派生図 『私たちの地球と未来』、 因果関係図 二次元軸表
	45-50	2. 学習発表会をしよう		
成 果	外部講師によるワークショップや施設訪問など体験活動を多く行うことで、児童にとって身近に捉えにくい世界の問題も、「これはおかしい。」という危機感をもって受け止めているようだった。1年間を通して、1. 知り、2. 参加型で共に考え、3. 実際に行動するという学びができた。			
課 題	最初のワークショップでの「世界の問題」の印象が強く、肯定的に世界と出会うことができなかったため、年間を通しての活動計画を見直す必要がある。実際に外国の児童とつながっていると実感できる活動があると、より世界を身近に感じ、意欲的に活動できたのではないかなと思う。			
備 考	「貧しい」＝「かわいそう」ではなく、海外の現地には、いわゆる日本とは違ったかたちの幸せがあるということを伝えたかったが、難しかった。年間を通して学年全体で、国際理解教育をさせていただいたが、今年限りとならないよう、今後も改善を重ねて実践していきたい。			

# 世界と肯定的に向き合おう

11  
C

所 属	名古屋市立南陵小学校	実践者	木下 恵
対 象	小学5年生(36名)	時間数	10時間
場 所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々(主に開発途上国)に興味をもち、肯定的に捉える。</li> <li>・世界の抱える貧困問題を知り、教育の大切さを通して、解決の道を考える。</li> <li>・自分の行動と世界の問題とのつながりを考えた上で、行動を起こすことができる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>「ブラジルってどんなところ？」</b> ☆身近な国に興味をもつ。(クラスに3人ブラジル人がいる) ・ブラジルについて、友達や母語学習協力員から話を聞く。	 母語学習協力員の協力 観光大使型発表
	2	<b>「他にもあるよ！こんな国」</b> ☆開発途上国と肯定的に出会う。 ・1人1つの開発途上国の観光大使として、グループに自分の国の良さを伝え合う。	 カード分け(実践資料集より) おはじき分け
	3	<b>「実はこれ、〇〇産なんです！」</b> ☆身近な物と開発途上国とがつながっていることに気付く。 ・身近な物がかかれたカードをアフリカに関係あるかないかで仕分ける。	 カード分け(実践資料集より) おはじき分け
	4	<b>「こんなにあるの？開発途上国」</b> ☆世界の富の配分の実態を知る。 ・世界の人口を5人に集約し、世界の富を100枚のおはじきとして、実際の配分で分ける。	 カード分け(実践資料集より) おはじき分け
	5	<b>「貧困の問題を知ろう」</b> ☆貧困から生まれる様々な問題を考え、解決の道を考える。 ・貧困から起こりうる問題を考え、派生図に書き出す。 ・問題解決につながる方法を考える。	 カード分け(実践資料集より) おはじき分け
	6-7	<b>「学校に行けないとどうなるの？」</b> ☆教育の大切さを知る。 ・貧困の負の連鎖の順序についてカードを並べながら考え、貧困のサイクルについて知る。 ・教育を受けることで可能になる未来について書き出す。 ・教育の大切さを世界に訴えるマラウさんの演説を聞く。(児童の提案)	 カード分け(実践資料集より) おはじき分け
	8 ~ 10	<b>「ひとりの100歩より、みんなの1歩」</b> ☆問題解決に働きかけるために、実際にどんなアクションを起こすべきか考える。 ・JICA出前授業を予定	 カード分け(実践資料集より) おはじき分け
			JICA出前授業
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジルについて肯定的に捉えることで友達の母国の良さや日本の良さについて改めて気付くことができた。</li> <li>・グループ参加型学習を多く取り入れながら行ったことで、子ども1人1人が積極的に活動することができた。</li> <li>・世界の問題について興味をもち、実生活でも多くの情報を積極的に取り入れるようになった。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身の実体験がないため、情報を、臨場感をもって伝えることができなかった。</li> <li>・世界の抱える問題に気付くことはできたが、2学期中に行動するまでには至らなかった。3学期には実際に行動につなげることができるよう実践を進めていきたい。</li> </ul>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動は4人とし、それぞれに明確な役割を示すことで活動がスムーズに運ぶように気を付けた。</li> <li>・話し合いの際には、まず全て肯定的に受け止めるようにする姿勢を大切にしたい。</li> </ul>		

所 属	岐阜県多治見市立共栄小学校	実践者	安藤 薫 (G)
対 象	小学5年生	時間数	45分×11
場 所	教室 パソコン室 体育館	実践教科	道徳 体育 音楽 家庭科 国語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナと日本を比べて違うところ、似ているところを見つけ、それぞれの国の良さに気付く。</li> <li>・貧困の輪を解決しようとする取り組みや各分野で活躍する日本人について知る。</li> <li>・違いを認め合うことが平和で豊かな社会につながるということが分かり、自分にできることを考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>I. みんな違ってみんないい? ガーナってどんな国?</b> ①アイスブレイキング(行ってみたい国は?) ②教師海外研修で撮ったガーナの写真を見る。 ③日本と似ているところ、違うところを見つける(学校・食事・生活等)。 ④違っていてもいいこと、違っていても心配なことを分類する。	・ガーナの写真(学校、町、生活の様子等) 現地で購入した国旗や地図
	2-4	<b>II. ガーナ人になり切ろう!</b> ①ガーナの遊び(縄跳び、手遊び等)や荷物を頭で運ぶ体験をする。 ②身近な物でアサルトを作り、演奏する。ガーナの曲を鑑賞し、歌う。	・現地で購入した楽器 動画(縄跳びや遊び、楽器演奏、歌)
	5	<b>III. おいしいぞ! ガーナ料理・日本料理</b> ①アイスブレイキング(好きな食べ物は何?その理由) ②クイズを通して、ガーナ料理を知る。 ③ガーナの人に日本の料理を紹介するならどんな料理をどのように紹介するか考える。	・パワーポイント(ガーナ料理)
	6	<b>IV. チョコレートから世界を考えよう</b> ①チョコレートができるまでや、日本とガーナとのつながりを知る。 ②フェアトレードという言葉や活動、児童労働について知る。	・パワーポイント(チョコレートができるまで) ・フェアトレードの動画 谷川俊太郎「そのこ」
	7-8	<b>V. 日本と世界のつながりを知ろう</b> ①JICA の資料を読み、自分達の主張を組み立てる。 ②ポスターセッション方式でお互いに読みとったことを発表し合う。	・JICA「どうなっているの?世界と日本」
	9-10	<b>VI. 貧困の輪を断ち切る人々を知ろう</b> ①アイスブレイキング(これまでのガーナに関わる学習で印象に残っていることは?) ②野口英世の生い立ちから学ぶ。 ③身近にある物でアフリカに関係する物を選ぶ。 ④JICA の取り組みを知る。	・貧困の輪のカード ・道徳資料「野口英世」 ・写真(野口研究所等) ・JICA 国際理解教育実践資料集
	11	<b>VII. みんな違ってみんないい</b> ①アイスブレイク(3分間で知っている国名を書き出そう) ②違いを認めなかったために起きたこと(戦争、紛争等)を知る。 ③違いを認め合うことが、平和で豊かな社会につながることを知る。	・写真(ガーナで活躍する日本人) ・JICA の広報動画
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とガーナの相違点や類似点を考え合うことで、それぞれの国の良さを感じることができた。</li> <li>・自分達の生活と世界がつながっているということ、様々な側面から考えることができた。</li> <li>・世界が多様であることの良さ、貧困や児童労働の問題、JICA の活動など、児童の視野を広げることができ、授業後も進んで調べ学習や関連する本を読む児童の姿があった。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだ参加型の手法を、今後も様々な場に取り入れていく。</li> <li>・学びを深めるためには、実践授業の時間の確保、他の教職員の理解・協力が必要である。</li> </ul>	
	備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナから持ち帰った物や JICA の資料等は、実践終了後に教室にコーナーを作り展示した。</li> </ul>	

# え！？学校に行けないの！？

13  
D

所 属	愛知県名古屋市長稲西小学校	実践者	高井 菜穂子
対 象	小学6年生	時間数	3時間
場 所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童に身近な「学校」を通して、教育の大切さや貧困について知る。</li> <li>・ 世界で起きている問題について興味をもち、行動しようとする態度を育てる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>○学校と自分</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校に通っていて「楽しいな！」「よかったな！」と思うことを1人3つ以上書き出し、グループ内で発表し合う。また、グループで出た意見をまとめ、全体でも発表し、自分達にとっての「学校の良さ」を共有する。</li> </ul> <b>○学校に行けない子ども達</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内で資料を読み合い、世界には学校に行けない子ども達がいることや、その理由を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 「世界の就学率」 「学校に行けない8つの理由」</li> </ul>
	2	<b>○学校に行けないと困ること</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校に行けないとどんなことに困るかについて、グループで派生図を作成しながら考える。</li> <li>・ 他のグループの作成した派生図を見て様々な意見があることを知る。また、共感したものに☆マークを付ける。</li> <li>・ 字が読めないとどんなことに困るのか、タイ語の書かれた薬の入った薬箱の中から症状に合う薬を探すアクティビティーを通して実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 派生図</li> <li>・ 資料 「教育が受けられないことで起こる問題」</li> <li>・ 薬箱の模型</li> </ul>
	3	<b>○教育と貧困</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育が受けられないことで起こる「負の連鎖」について、カードを輪になるようにつなげながら考え、教育が受けられないことで様々な問題が生じ、貧困状態に陥っていくことに気付く。</li> <li>・ 「負の連鎖」の悪循環から抜け出すためには、第3者の力が必要であることを知る。</li> </ul> <b>○貧困を救うために</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクティビティー「ムハンマドさん一家を救え！」を行い、貧困を救うためにはどうすればよいのかをグループで考え、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「負の連鎖」カード（「学校に行けない」カードが1番目にくるようにして、他のカードをつないでいく。）</li> <li>・ 資料 「モロッコのムハンマドさん一家を救え！？」</li> </ul>
成 果	<p>実践を通して、「学校へ通えるありがたみ」や「教育の大切さ」に気付けた児童が多かった。「学校」という身近なものから貧困を知ることによって、「自分が同じ立場だったら・・・」と自分に置き換えて考えることのできている児童の姿が見られた。貧困を救うためにどうすればよいのか考える経験をしたことで、「自分たちにできることは何なのかもっと知りたい」や「できることは自分からやっていきたい」と思う児童もいた。様々なアクティビティーを通して実践を進めることによって、貧困について知識として知るのではなく、実感しながら知ることができた。</p>		
課 題	<p>貧困状態に陥っている人々のことをただ「かわいそう」と思うだけで、他人事のように捉えている児童もいた。今後は、「世界の諸問題と自分達のつながり」が実感できるような実践を行っていきたい。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動は全て4～5人のグループで行った。グループは毎時間変え、毎回アイスブレイキング（テーマは授業内容と関わりのあるもので設定）を行った。児童は、授業後に毎回、振り返りを兼ねて感想を書いた。</li> <li>・ 参考資料：国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～（JICA地球ひろば）</li> </ul>		

# クラスのみんなが～教室で～異文化に出会った～

14  
C

所 属	津市立敬和小学校		実践者	芳岡 哲親
対 象	6 年生・全校児童		時間数	8時間
場 所	6 年生教室・体育館、特別教室		実践教科	総合学習・学級活動
ねらい	・タガログ語で授業を受けることにより、クラスの外国につながる友達の気持ちに思いをめぐらすことができる。 ・友達の作文から、その気持ちにふれ、自分のことと重ねて考えることができる。 ・国際理解ウォークラリーに参加することで多文化にふれることができる。			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	1 2 345 678	○フィリピンからきた友達を先生にタガログ語での授業を受ける。 ・外国につながる児童が母語で語でクイズを出す。 ・自分の理解できない言語で授業を受ける体験をした感想を書く。 〈シュミレーション〉 ○前回の授業感想から見えてきたクラスの中にある課題について話し合う。 「もっといいクラスにするには」〈ブレインストーミング〉 ○自分の思いをつづり、クラスの仲間に開いていく。(年間を通した綴り方のとりくみ) ・作文の推敲作業を行い、児童の思いや願いを十分に聞き取る。 ・前回までの授業の流れから、様々な思いをもって外国の学校で生活している作文について開いていく。 ・友達の思いを聞き、話し合うことで自分の課題などに重ねて考えていく。 ○国際理解ウォークラリー ・カポエラを体験しよう！(ブラジル) ・外国のおかしを食べてみよう！(フィリピン、ペルー、ブラジル) ・アフリカの太鼓ジャンベを体験しよう！ ・日本の和太鼓を体験しよう！ ・中国について知ろう！ ・外国の衣装を着てみよう！ ・韓国の文化にふれよう！ ・外国のダンスを踊ってみよう！(サンバ、リンボー、ヒップホップ) ・ペルーの音楽を聴いてみよう ・外国の遊びを体験しよう。	クイズ解答用紙 感想用紙   	



所 属	愛知県 名古屋市立 高針小学校	実践者	松本 隆史 (L)
対 象	小学6年生	時間数	18時間
場 所	教室 体育館 JICA 地球広場	実践教科	国語科 社会科 総合的な学習
ねらい	国際社会を生きる日本人として世界に目を向け、平和な世界を築くために、自分ができることを考える。		
実 践 内 容	回	プログラム	備 考
	1～7	<b>1. 平和って何だろう？</b> ① 資料を読み、平和について自分の考えをもつ。 ② グループで、平和についての考えを広げる。【プレスト】 ③ 平和についての意見文を書く。 ④ 同じ視点の者で、互いの意見文を読み合う。【グループワーク】 ⑤ 同じ視点のグループで提案文を作る。【グループワーク】 ⑥ 提案文を発表し合い、提案について意見交流会を行う。【討論会】 ⑦ 自分の考えを見直し、平和を築くための考えをもつ。	資料『平和の礎を築く』 模造紙 学習プリント1 学習プリント2 学習プリント3 学習プリント4
	8・9	<b>2. この国 日本？</b> ① 日本との同一性に気付く。【グループ対抗クイズ】 ② ラオスの魅力に触れる。【フォトランゲージ】【実物体験】 ③ ラオスの抱える問題点を予想する。【フォトランゲージ】	パワーポイント1 学習プリント5 ティップカオ・ドライフルー ツ・漉き紙・セバタクロー・ 巻きスカート
	10・11	<b>3. 困ったときはお互い様。</b> ① 不発弾による被害を知る。【フォトランゲージ】 ② 不発弾問題解決に取り組む日本の支援の現状を知る。 ③ 日本が東日本大震災の時に受けた支援の状況を知り、 世界が互いに支え合っていることに気付く。【数字クイズ】 ④ 日本もラオスと同じように不発弾の問題を抱えていることに気 付き、不発弾問題を自分ごとと捉える。【クイズ】	パワーポイント2 学習プリント6 映像資料『UXO』
	12・13	<b>4. 世界って面白い。</b> モルディブで活動した青年海外協力隊員を講師に招き、人々の 暮らしと支援活動、地球温暖化による問題点を知る。	講師 海外協力隊 OB 鉦田直史さん 学習プリント7
	14～16	<b>5. 初めて知る世界。</b> 地球広場での体験を通して、世界の現状を理解するとともに、 ザンビアで農業支援活動を行った協力隊員との出会いから、国際 支援活動の魅力と必要性に気付く。	校外学習のしおり ウガンダ給食 JICA 地球広場体験 講師 海外協力隊 OG 小笠原直美さん パワーポイント3 学習プリント8 映像資料『メッセージ』 模造紙・付箋
	17・18	<b>6. 自分にできること。</b> これまでの学習から、日本と世界の平和のために自分が できることを考える。【KJ 法】	
成 果	国際社会を生きる日本人に出会い、話を聞いたり、体験したりすることで、世界の魅力に触れると共に、その課題に気付くことができた。そして、平和な世界を築くために、課題解決に向け、自分ができることを考えることができた。		
課 題	子どもの世界に対する興味・関心は高まり、世界の課題解決に向け、自分ができることを考えることができた。今後は、課題解決のための行動化の支援を行う必要がある。		
備 考			

# 青年海外協力隊から帰ってきた先生にできること

16  
H

所 属	愛知県大口町立大口南小学校		実践者	青山 翔
対 象	小学校4・5・6年生		時間数	3時間
場 所	教室・体育館		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	・担任である私が青年海外協力隊員として、現地で感じたことを子どもたちに伝えることで、子どもたちがどのような感想をもつのか明らかにしていくこと。 ・教員が青年海外協力隊として得た経験を子どもたちにどのように還元できるのかを模索すること。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	○ 4年生～6年生に青年海外協力隊員としての体験談をスライドを使い紹介する。 ・ アイスブレーキング ・ 教師による体験談を話す。 ・ 体験談を聞いた感想を発表してもらう。		
	2	○ 現地語のみを使い、算数の授業を子どもたちに行う。 ・ アイスブレーキング ・ 算数の図形の面積の1単元を子どもたちに行う。 ・ 授業を受けた感想を子どもたちに発表し合ってもらう。		
	3	○ 青年海外協力隊員としての体験談をスライドを使いながら4年生の子どもたちに紹介する。 (1よりも詳しく) ・ アイスブレーキング ・ 教師による経験談を話す。 ・ 体験談を聞いた感想を発表し合ってもらう。		
成 果	・ 派遣前に教えていた児童や、現在教えている児童に対して体験談を伝えることができ、子どもたちがどのような感想をもつのかを知れたこと。 ・ 青年海外協力隊の経験の学校現場への還元についていろいろと考えられたこと。			
課 題	・ 青年海外協力隊としての経験をどのように現場で生かせるのか考えていく余地があること。			
備 考	・ 現職派遣制度で派遣された教員が帰国後に現場で何ができるのかをお伝え致します。			

所 属	愛知県立岡崎特別支援学校	実践者	遠山 幸久
対 象	肢体不自由児支援学校高等部1・2年(3名)	時間数	40分×12コマ
場 所	高等部2年学習室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの暮らしを振り返り社会とのつながりを確認する。</li> <li>・支援を受けることが多い自分たちが、自分たちでもできることを探して実践することにより社会のきずなのつながりを実感する。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<p>・「暮らしを便利にしているもの。」</p> <p>生活を豊かにしているものを挙げ、それらをグルーピングし、その基盤として電力があることに気づいた。</p>	付箋 B 全紙 水性マジック
	2	<p>・「もしも電気がなかったら」ブレインストーミング</p> <p>電気が使えない生活を想像し付箋に記入し B 紙に貼ってまとめた。</p> <p>「衛星がとらえた夜の地球」</p> <p><a href="http://wired.jp/2012/12/07/suomi-satellite-night-lights-gallery/">http://wired.jp/2012/12/07/suomi-satellite-night-lights-gallery/</a></p> <p>衛星から見た夜の地球を見て暗く見える地域を地図で確認した。その地域の生活の様子を想像し意見を交わし資料で確認した。</p>	ノートパソコン
	3	<p>・「電気の特徴と作られ方」</p> <p>保存や輸送がしにくい電力の特徴と発電方法について知った。火力発電が化石燃料に依存している事や自然エネルギーだけでは十分に電力をまかなえない事を理解し、さらに原子力発電の安全性について考えた。</p>	資料
	4	<p>・「今日と同じ明日のために」</p> <p>T シャツに書かれた単語の意味を理解し社会が持続して発展していくために大切なことは何かを具体例を挙げて考えた。</p> <p>限りある資源を有効に使うために自分たちが今できることを考えた。</p>	re で始まる英単語が書かれた T シャツ
	5	<p>・「身近なところでリサイクル」</p> <p>身の回りでリサイクルできるものを探した。そして捨てられるチョークをリサイクルすることを考えた。</p>	リサイクルチョークの見本
	6	<p>・「リサイクルチョーク作り」</p> <p>実際に小さくなったチョークを回収しリサイクルチョークを作ってみた。</p> <p>手順 回収→洗浄→乾燥→粉碎→溶解→流し込み→成形</p>	資料 世界子供白書
	7	<p>・「リサイクルチョークの利用方法」</p> <p>リサイクルチョークを有効活用するためにはそうすれば良いかを考える。</p>	バット、乳鉢、乳棒、ネット、わら半紙
成 果	<p>少ない社会経験や知識を活用し、いろいろな状況下にある人々の暮らしに思いを馳せることができるようになった。支援を受けることが多い自分たちでもできることを探して支援・協力できることがあることに気がついた。</p>		
課 題	<p>学習集団が小さい(3名)のために活発な意見の交換が少なかった。多くの人数で行うネット等を利用して他校と意見交換をする必要がある。社会経験や基礎的知識を増やす必要がある。</p>		
備 考	<p>男子1名、女子2名の3名で学習を始めたがリーダー格の男子が入院し、女子1名も体調不良で欠席が多く企画した授業を展開できなかったのが残念である。</p>		

# ラオスから考える「大切なもの」


18  
F

所 属	各務原市立各務原養護学校		実践者	大前 奈津香 (L)										
対 象	高等部2年生		時間数	6時間										
場 所	教室・音楽室		実践教科	自立活動										
ねらい	・世界の国に興味関心をもつ。 ・友達の大切さを感じ、自分の行動を振り返ることで、より良い友達関係を築く。 ・戦争について知り、平和について考える。													
実践内容	回	プログラム			備 考									
	1	①先生の行った国を当ててみよう！ ★世界に国はいくつあるのだろうか？ ・知ってる国を書いてみる ・国名を読み上げ→聞いたことがあるかないか			知らない国がいっぱい。でも名前も知らない国とでも繋がっている！									
	2	②ラオスについて知ろう…写真を見て考える ★日本とラオスの共通点やつながり…(空港建設支援、職業訓練、日本のアニメのDVD、ドラえもんの歌、スポーツ、将来の夢など) ★相違点…(お寺の形、病院の付添い、大切なものランキング)												
	3				・ラオスで撮影した写真 ・ラオスで書いてもらった自分の夢									
	4	③友達は大切？…ランキングから考える ＜大切なもの、楽しいときの統計(最上位)の比較＞ <table><tr><td></td><td>大切なもの</td><td>楽しいときや幸せなとき</td></tr><tr><td>ラオス</td><td>家族</td><td>友達と遊ぶ</td></tr><tr><td>日本(自校)</td><td>CD、DVD、</td><td>音楽を聴く</td></tr></table> ★もし友達がいなかったら？ ・どうなるか、どんな気持ちになるかを書く。 ・KJ法でまとめる(教員が行う) ★友達を大切に作る3ヶ条をつくる				大切なもの	楽しいときや幸せなとき	ラオス	家族	友達と遊ぶ	日本(自校)	CD、DVD、	音楽を聴く	ラオスの子は友達といくと幸せだって。みんなは友達が大切じゃないの？
		大切なもの	楽しいときや幸せなとき											
	ラオス	家族	友達と遊ぶ											
日本(自校)	CD、DVD、	音楽を聴く												
5	④戦争を知ろう。平和について考えよう ★戦争を題材とした絵本とDVD鑑賞 ・特攻隊員が出撃前日、ピアノが弾きたいと小学校を訪ねてくる話「ピアノは知っている～月光の夏～」の朗読(抜粋)とDVD視聴(一部)			ラオスも日本も戦争を経験している										
6	★戦後も続く戦争の爪痕 ・ラオスの不発弾の被害映像(UXO Lao提供)と日本の不発弾処理の現状 ・平和について思うことのプリント記入													
成 果	・「もし友達がいなかったら…」を考えてみることは、友だちの大切さを感じたり、今までの関わり方を振り返ることにつながった。生徒からは「今までこんなふう考えたことがなかった」という声もきかれ真剣に考えることができた。													
課 題	・友達との関係作りにしても、平和教育にしても、繰り返しの指導が必要であるが時間の確保が難しい。													
備 考														

# 緊急会議！ラオスと地域の未来を考えよ！

19  
F

所 属	岐阜県立下呂特別支援学校	実践者	辻 真美 (L)
対 象	高等部1～3年(知的障がい有する生徒)	時間数	5時間 (45分×5)
場 所	多目的室	実践教科	外国語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化に触れることを通して、多様性や価値観の違いに気づく。</li> <li>・ラオスにおける課題について知ることで、自分の地域の良い部分や課題について考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>ラオスに出会おう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の知っている国を3分間で挙げる。</li> <li>・ラオスの「衣・食・住」の写真や動画を見て、ラオスについて興味をもつ。</li> <li>・ラオスの「びっくり！写真」とその説明文を見て、ラオスの「びっくりクイズ」を考える。</li> </ul>	パワーポイント フォトランゲージ
	2	<b>ラオスの「困った！」について一緒に考えよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスクイズ(1問)</li> <li>・病院から連想することを挙げる。</li> <li>・ラオスの病院の「困った」状況の写真を見て、このままだとどうなってしまうか？を考える。</li> <li>・患者、病院関係者、国の立場から改善点を考える。</li> <li>・医療現場で働く青年海外協力隊員のメッセージビデオを見る。</li> </ul>	ポップコーン方式 派生図 プリント ビデオ(サヤブリー県病院)
	3	<b>ラオスの課題から地域について考えよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスクイズ(2問)</li> <li>・地域の良い面と悪い面を連想する写真から、ロールプレイをする。</li> <li>・理想の地域についてイメージを膨らませる。</li> </ul>	ロールプレイ ブレーンストーミング
	4	<b>自分たちの地域の未来について考えよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスクイズ(2問)</li> <li>・地域に関するクイズ(市章、花、木)と市民憲章を読み地域の良さに気づく。</li> <li>・「このまま大切にしたいこと」「変化していくといいこと」を考える。</li> </ul>	プリント 対比表
	5	<b>自分たちの理想の未来を共有しよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理想の将来像をまとめて、発表する。</li> <li>・仲間の共感できるアイデアに「いいね」のシールをはる。</li> </ul>	指標づくり
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスについて知ることを通して、楽しみながら多様な価値観に気づくことができた。</li> <li>・ラオスの課題について共に考えることを通して、「課題意識」を高めることができ、またその気づきを自分たちの生活につなげて考えることができた。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒達の気づきや考えを「どう行動に移すのか」までは、学習を深めることができなかったため、他の授業や地域に関する学習と関連させて、生徒達の学習の幅を広げていきたい。</li> </ul>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動グループを5名×5グループで構成した。</li> <li>・各グループに教員を配置し、グループアクティビティでは進行役を務め、話し合いの参加が難しい生徒に対して支援を行った。</li> </ul>		



所 属	はままつ国際理解教育ネット	実践者	和田 園子
対 象	中学生以上	時間数	4 時間
場 所	浜松市多文化共生センター	実践教科	国際理解教育ファシリテーター養成講座
ねらい	①貧困問題を通じて、「ほんとうの豊かさ」とは何かを考える。 ②日本にも存在する「貧困」にも着目し、身近なところで自分にできることを考える機会にする。 ③グループファシリテーターになることで、ファシリテーションを体験する。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>【アイスブレイキング】 ランキングゲーム</b> 誕生日・名前(下の名前)の 50 音順などで全員が順番に一列に並ぶ。	
	2	<b>【ファシリテーション解説】 講義形式</b> 「ファシリテーターおよびその 4 つの基本スキル」を説明	参考文献:堀公俊「ファシリテーション入門」
	3	<b>【貧困連想ゲーム】 連想図(派生図・因果関係図)作成</b> ① グループ内自己紹介- 2つのわたし、どっちがウソ ② 「貧困」から連想されることばを模造紙に書き連想図を作成する。	参考文献:NH 地球データマップ・ネットワーク 地球村ホームページ
	4	<b>【構造的貧困】 資料を読む</b> ① 5 分割した「日本の低い自給率と世界の貧困とのつながり」の資料をグループメンバーで分担して読み、その後メンバーと共有。 ② 模造紙の左側に「日本の低い自給率が世界に引き起こしている問題」を、模造紙右側に「問題をなくすためにできること」を書く。 ③ 自分が「まずこれからやってみよう」と思ったことを紙に書く。	
	5	<b>【豊かさの指標】 レーダーチャート作成</b> ① 開発教育協会の「力の剥奪」資料を使用し、日本とバングラデシュの家族を比較したレーダーチャートを作る。 ② 自分にとっての幸せの条件 3 つを紙に書く。	参考文献:開発教育協会「貧困と開発」
	6	<b>【お隣の木村さん】 ロールプレイ</b> ① 木村さんご近所の人たちの役になってロールプレイで話し合い。 ② 役を離れ、「だれもが『幸せ』を感じられる社会づくり」のために自分ができることを考える。	
	7	<b>【ふりかえり】</b> 「今日の講座で印象に残った事」 「ファシリテーターにとって大切なこと」を全体に発表。	
成 果	①「貧困」は遠い国の問題ではなく、自分の身近なところにも存在することを伝えることができた。 ②「問題の根本は無関心から」という意見が出たことが、いちばんの成果だった。		
課 題	① アクティビティの時間配分がうまくできず、メインのアクティビティの時間が足りなかった。 ② 「参加者の反応は常に想定外」ということを改めて気づかされた。		
備 考	はままつ国際理解教育の「国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座・第 3 回」で行ったワークショップである。		



# 「“外国人”が日本で暮らす」ということ

21  
H

所 属	静岡日本語教育センター	実践者	松本 裕典
対 象	留学生(日本語学校生)	時間数	3 時間(50 分×3)
場 所	静岡日本語教育センターA32 教室	実践教科	日本語(中級)
ねらい	日本語学校で学ぶ留学生も自身が日本で暮らす“外国人”の一員であることを理解するとともに「“外国人”が日本で暮らす」ことで生じる困難や希望を「当事者」の視点から共有し、共生社会に生きるために何が必要かを考え、自らの未来を切り開くことができるようになる。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>0. アイスブレイク</b> ペアを作り、「冬休み何をした?」と「新年の抱負」を話す。その後、ペアになった相手の情報をそれぞれ発表し、教室全体で共有する。  <b>1. 導入</b> 先行実践「世界一大きな授業」、「Who is Japanese?」を思い出す。その時の気持ちを思い出して、全体で再共有する。その後、本実践の趣旨と主題を説明し、3~4 人のグループを作る。  <b>2. 日本に住んでいる“外国人”はどのくらい?</b> 日本にはどのくらいの“外国人”が住んでいるのか、どんな「種類」の“外国人”がいるのか、そもそもどんな人が“外国人”なのか、などについてクイズ形式で考える。(日本に住んでいる“外国人”の総数と国籍別ランキング、都道府県別ランキングと静岡県の場合)	・新年最初の授業だったため、このテーマを取り上げた。  ・本実践以前に実施した関連する実践を想起してもらい、感覚や課題を呼び起こす。  ・法務省発表の「在留外国人統計」の 2014 年 6 月末の数値を参考に、一覧表を作成した。
	2	<b>3. 在留資格って何?</b> “外国人”を規定するものの一つである「在留資格」について学ぶ。まずどんな「種類」があるのかを全体で考え、グループで“外国人”カードを分類する。多様な“外国人”が生活していることに気付く。	・開発教育研究会編(2012)の資料(p.60)とカード(pp.63-66)を使用した。
	3	<b>4. 日本で暮らす上での問題は?</b> グループで日本で暮らす上での悩みや困っていることなどを話し合う。その後、出た意見を分類してほかのグループに回覧する。次になぜそれが問題だと感じるのか、変えていきたいことや変えてほしいことは何かなどを話し合い、再びほかのグループに回覧する。  <b>5. まとめ</b> 一連の授業で取り上げたことを整理し、ひとりひとりの振り返りを行うために、「この授業を通して考えたこと」と「これからの私にできること」を各自で紙に書く。	・自らの経験によるものや“外国人”カードの人々の例などが出た。 ・ポストイットと A3 用紙を使用した。  ・時間の関係で全体共有はしなかった。 ・A4 用紙を使用した。
成 果	課題の「当事者」として非常に身近に自らの問題として考えてもらうことができた。また、日本で暮らす“外国人”の多様性についてもより理解を深められた。仲間とともに考えることの重要性も改めて認識してもらえたのではないかと感じている。		
課 題	総じて入門的な授業となってしまう、具体的な議論にまでは至らなかった。ねらいの後半部分が達成できるように、今後は学生の興味関心に応じて在日コリアン、難民、日系人など個別事例にも分化していくなど継続性を持たせていくことが必要である。		
備 考	【参考文献】 開発教育研究会(編)(2012)『身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ——オキナワ・多みんぞくニホン・核と温暖化』明石書店。		

所 属	公益財団法人名古屋国際センター	実践者	池田 昌代
対 象	豊川市語学指導助手	時間数	3時間
場 所	学校教育課指導助手控室	実践教科	—
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を振り返り、自分たちだからこそできる子どもとの関わり方があることを改めて意識する。</li> <li>・現職への思いを高めるとともに、在籍学級で行うワークショップ作りにつなげる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<p>【今の「わたし」をつくったもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①モノ、人、出来事などにかかわらず、今の自分に関係していると思われることを書き出す。</li> <li>②書き出したものを共有する。(KJ法)</li> </ul> <p>【ターニングポイント - わたしが変わったキッカケ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分の考え方や在り方を変えるきっかけとなった出来事をいくつか書き出す。</li> <li>②1番自分を変えた、と思う出来事を選び、(差支えなければ)発表し、共有する。</li> </ul> <p>【もし、それがなかったら…】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①先に挙げたターニングポイントがあったからこそその自分と、もしなかったら、という仮定の自分を考える。(タイムライン(改))</li> </ul> <p>▶感想を共有する。</p>	 
	2	<p>▶前回の振り返り。</p> <p>▶児童の作文や現在の様子から、子どもと周囲の関わり方について考える。</p> <p>▶担当する子どもたちに期待すること、在籍学級の子どもたちにわかってほしいこと、などを共有する。</p> <p>【アクティビティを体験しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実際にアクティビティをやってみる。</li> <li>②アクティビティを通して感じたことを共有する。</li> </ul> <p>【協同相手を考えよう】</p> <p>ワークショップを行うにあたり、誰と協同するか、したいか、について考える。(ランキング)</p> <p>▶どんなワークショップにしたいかについて意見やアイデアを出し合う。</p> <p>▶感想を共有する。</p>	<p>児童の作文</p> <p>「何が見えるかな」 ※H22 年度開発教育指導者研修(上級編)久保真希子先生の実践より。</p>
成 果	<p>・同僚の生い立ちなどに改めて触れ、「学校」という場での体験がそれぞれに大きく関わっていることを実感できた。</p> <p>・先生方から過去に他の先生が実践された授業などのアイデアが出されるなど、自分たちが実践者になることへの意識をより高めることができた。</p>		
課 題	<p>・協同相手である教員への働きかけの方法や、教員を対象に行う実践などについても触れられるとよかった。</p>		
備 考			

所 属	三重県四日市市立西陵中学校	実践者	天野 勝 (G)
対 象	中学1年生全67名	時間数	全6時間
場 所	本校視聴覚室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	前半3時間のテーマは『人生いろいろ』。同級生の考え、他国の暮らしなどを交流しながら、自分の常識を打ち破ることが目標です。後半3時間のテーマは『本当に大切なものは何か?』。自分の生活を検証し、本当に大切なものについて考えさせていきます。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	①	<p>毎時間新しいグループのメンバーとの「アイスブレイキング」から始め、ウォーミングアップをしました。</p> <p>「人生いろいろ①～行ってみたい国」</p> <p>「1か国だけ1週間ただでいかせてあげる」と言われたらどこの国を選ぶか?お互いに世界の関心事を交流し合いました。</p>	教材1(ガーナで買ったアフリカが中心の世界地図)
	②	<p>「人生いろいろ②～チョコの授業」</p> <p>ガーナと日本を結ぶ「カカオ」を切り口に、カカオ豆からチョコとなつて口の中に入るまでの過程を学習することで、チョコレートほど作る人と食べる人の距離が遠い食べ物はないことを知りました。</p>	<p>教材2(自作の「チョコレート何でもランキング」)</p> <p>教材3(中学3年の英語教科書中のガーナの教材)</p> <p>教材4(谷川俊太郎の詩「そのこ」You Tube 版)</p>
	③	<p>「人生いろいろ③～ガーナを知ろう」</p> <p>ガーナの写真を見ながら、ガーナの人々の暮らしや学校生活を知ることにより、自分の生活、日本の現状などと対比しながら、世界の中の多様な社会について学びました。</p>	教材5(ガーナの生活が分かる写真⇒食べ物・水・家庭・習慣・学校・子ども)
	④	<p>「本当に大切なもの①～無人島ゲーム」</p> <p>「無人島に無期限で移住することになったとしたら何を持っていくか」を考えるを通して、自分の生活を見つめ直し、本当に大切なものについて考えました。</p>	教材6(無人島シート)
	⑤	<p>「本当に大切なもの②～コンビニ弁当の原料生産国を当てよう!」</p> <p>「コンビニ弁当の具材はどこから来るのか」を考え、結果を知ること、外国産の食品の多さに気づき、自分の国のことだけ考えていては生きていけないことを学びました。</p>	<p>教材7(JICA「どうなってるの?世界と日本」)</p> <p>教材8(コンビニ弁当の具材19品目)</p> <p>教材9(教材8の答え)</p>
	⑥	<p>「本当に大切なもの③～人生のタイムラインを作ろう」</p> <p>5時間の学習をふまえて、「人生のタイムライン」を作成しました。これまでの人生を振り返り、将来の自分を想像してみました。その中から「自分にとって本当に大切なもの」を題材に作文を書きました。</p>	教材10(タイムラインカード)
成 果	参加型の学習に初めて参加した生徒は、自分から発信する楽しさや今まで知らなかった友達の考えを知る喜びを感じたようです。また学習が進むにつれて、初めて知ることや思考の転換により、好奇心をかきたてられる感動を少なからず味わうことができました。		
課 題	知ることを自分の行動に生かすことにつながられた実感が薄い。実態や事実がわかっても、自分の考え方・生き方を変えるまでには至っていないようです。それは、世界に飢えている人が多いことは分かっても、飽食をやめられない大人でも同じであるかも知れません。		
備 考			

# ガーナってどんな国？ - 初めて出会うアフリカの国 -

24  
A

所 属	岐阜聖徳学園大学附属中学校	実践者	河田 康皓 (G)
対 象	中学1年生 (89名)	時間数	60分×9時限
場 所	本校 各英語教室	実践教科	英語
ねらい	<p>①単元内自由進度学習で興味のある分野について自分で調べ、生徒が主体的・自発的に興味にある内容について調べ発表することができる。</p> <p>②写真を示し現在進行形で「～は〇〇をしています」と説明することができる。</p> <p>③英語で発表や掲示物などを作成する過程で、辞書を用いて自分の言いたいことを英語で表現することができるようになる。</p>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<p>オリエンテーション 3コースある学習教材の各コースの説明と学習計画表の作成</p> <p>＜JICA コース＞ JICA がガーナで行っている事業についてまとめた学習シートを進めていくコース。</p> <p>＜ナショジオコース＞ チョコレートができるまでを取材する記者仕立てのストーリーで学習シートを進めていくコース。</p> <p>＜ガーニアンコース＞ 現地の小学生との交流をしていく上で生活や文化についての学習シートを進めていくコース。</p>	<p>パワーポイント「ガーナクイズ」</p> <p>チェックテストなどで生徒と触れ合う時は基本的に褒めることを意識する。また「教える」ことよりも「考えさせる」ことに徹する。</p> <p>教師海外研修で撮影した写真・動画の一部はクラウド上で共有されどの iPad からでも閲覧・活用可能。</p>
	2-8	2-8時限内で生徒は自分で作成した学習計画表を元に各自のペース、自由な場所でチェックテストを一部受けつつ学習を進めていく。	
	9	人前で発表することが得意な生徒は iPad にインストールされた PowerPoint を利用して英語でプレゼンテーションを行う。人前で話すことが苦手であったり、イラストなどが得意な生徒はイラストを描いたり写真を貼ることで、英語で説明をつけた掲示物を作成する。	
成 果	<p>教師主導で知識を習得するのではなく、生徒の興味関心に沿ったテーマを生徒自身が選択し深めていくことで意欲的にガーナの文化や JICA の取り組みについて理解する生徒が多かった。与えられた文章を英訳することが苦手な生徒も、自分の言いたいことならば積極的に英語で表現することができた。生徒によっては一人一台ずつ貸し出した iPad を活用してかなり高度な英文を作ることができる生徒も多かった。</p>		
課 題	<p>より深い生徒理解に基づいた学習コースや興味関心に即した教材や学習環境の整備が必要であること。発表の内容により多様性を持たせるために教材の出口に広がりをもたせたものにしていく必要がある。英語の観点別評価「異文化理解」を中心に行っているが、読み書きの時間を増やすために音読を学習シートに組み込むと良かった</p>		
備 考			



# 『国際支援って、必要？』

25  
B

所 属	静岡県浜松市立細江中学校	実践者	矢部 航一郎 (L)
対 象	中学2年生	時間数	7時間
場 所	教室	実践教科	総合的な学習の時間・道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後発発展途上国(主にラオス)の生活や文化と肯定的に出会い、日本とのつながりを知る。</li> <li>・ 国際支援をする側とされる側の双方の立場で考え、支援を考える上で大切なことを模索する。</li> <li>・ 世界のことをもっと知りたいと関心を高め、さらに、自分の生まれ育った国:日本を好きになる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	第1時	<b>【ラオスを知る・ゴミ処理問題から考える】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイスブレーキング ・ ラオスについて TV 動画から知る。</li> <li>・ 国際支援と聞いて想像できる支援の具体的内容を挙げる。</li> <li>・ 日本の支援で運営されるラオスのゴミ処理施設を想像して描く。</li> </ul>	TV「未来世紀ジパング ラオス」(テレビ愛知) ゴミ処理施設の写真の一部を隠したもの
	第2時	<b>【貿易ゲーム ～先進国・発展途上国・後発発展途上国～】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先進国・発展途上国・後発発展途上国(グループ)、及び、国連(2人)の立場にそれぞれ分かれてグローバル経済を疑似体感。</li> </ul>	「貿易ゲーム」(クリスチャン・エイド)
	第3時	<b>【ゴミ処理問題を題材に、支援を受ける側に立って考える ～そこにいる人・もの・課題・支援～】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォトランゲージ(ステレオタイプな捉え方が危険であると感じる)</li> <li>・ 現地の人にとっての課題と本当に必要とされる支援を考える。</li> <li>・ どんな支援が有用かを練り上げる(グループによるブレインストーミング)。</li> </ul>	エチオピアの写真(ユニセフ) ウェストピッカーの写真 少数民族の写真 ラオスの数学教科書
	第4時	<b>【現場で国際支援をしている人を知る】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の役に立つ(後:国際支援につながる)仕事を挙げる(KJ 法)。</li> <li>・ 各分野で支援活動に従事するラオス滞在日本人の生き様や考え、夢に触れる(看護・児童への環境教育・スポーツ指導・障害者支援)。</li> </ul>	ラオスチームで取材した、青年海外協力隊の方々などのインタビュー動画、活動地の写真
	第5時	<b>【不発弾処理から考える国際支援】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不発弾の怖さを知り、それが生活と隣り合わせである恐怖を実感。</li> <li>・ 不発弾除去にかかわる日本や各国に支援について知る。</li> <li>・ 日本(沖縄・浜松)にも不発弾問題は依然として存在することを知る。</li> </ul>	爆弾の殻の実物 不発弾紹介動画(UXO Laos) 不発弾危険啓発ポスター 夏休み課題(戦争調べ) 沖縄不発弾ニュース動画
	第6時	<b>【支援を考える上で大切なこと・支援をする日本の国益】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記いずれかのテーマでグループごとブレインストーミングを行い、発表。</li> <li>・ 支援をする側の国益も考えつつ、国際支援を多角的に捉えなおす。</li> </ul>	
	第7時	<b>【まとめ・感想】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パラオなどへの ODA を知る。 ・ 総括的な考察を文にしたための。</li> </ul>	ラオス・比・パラオの写真
成 果	『国際支援』を切り口に、支援は必要か、どのような支援が有用かを考える過程で、生徒は国内外の多くのことを考えてくれた。子どもが自分なりの考えを毎時間もてたことがなよりの成果。感想は多岐にわたるが、子どもたちに、世界に目を向ける『種』を撒くことができたと感じる。		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あれもこれもと紹介するのではなく、提示資料の精選も学びを深めるためには重要と感じた。</li> <li>・ 年度当初から年間計画にはなかった活動で、もっと多くを扱いたかったが時数の創出に苦労。</li> </ul>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの立場の違いをより強く意識するため、敢えて国際『協力』ではなく『支援』とした。</li> <li>・ 子どもに授業後の感想と、国際支援の必要の是非とその理由について全時で書かせた。</li> <li>・ 第3時のみ道徳(価値項目:思いやり・協力)として実践。その他の授業は総合として行った。</li> </ul>		

所 属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	須古井 京子 (L)
対 象	中学2年生	時間数	16時間
場 所	総合教室 体育館	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々や人々に興味をもち、共通性や多様性に気づくことができる。</li> <li>・ラオスと日本との比較から、豊かさや幸せについて考えることができる。</li> <li>・ラオスで働く人々のことを知り、自分の将来の夢について考えることができる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1～12	<b>&lt;世界と出会おう&gt;</b> ○世界がもし 100 人の村だったら ○貿易ゲーム ○貧困の悪循環 ○世界の学校事情 ○わたしの常識はあなたの非常識？ ナミビアの暮らしを知ろう。日本の常識は、ナミビアではどうなる？ ○校外学習 “Green Peace の旅” (なごや地球ひろば、ピースあいち) ・ 世界の子ども展 ・ ブータンに出会う ・ ウガンダ給食体験	「世界がもし 100 人の村だったら」 パワーポイント JICA国際協力出前授業 講師：ナミビア元海外青年協力隊員  JICA中部 訪問プログラム体験
	13	<b>&lt;ラオスと出会おう&gt;</b> ○ラオスに行ってきます！ ・ラオスってどんな国 ・アンケート ○ラオスの子どもたちを笑顔にするプロジェクト ・ 千羽鶴を折ろう ・ 文房具を送ろう	パワーポイント アンケート
	14	<b>&lt;ラオスを通して気づき、考え、行動しよう&gt;</b> ○ラオスと日本の深い気づき ・ ラオスクイズを作り、面白いものをみんなに紹介する。 ・ ラオスの写真をみて、気づいたことを付箋に書き、日本と比較し、違いや同一性を考え、グループで二元軸表を完成させる。 ・ ラオスと日本の比較から、自分たちの“深い気づき”を3つ選び、グループ毎に発表する。	ラオスクイズ 6 セット ラオスの写真 6 セット 模造紙 6 枚、付箋紙、 (二元軸表) ワークシート
	15	○豊かさって何だろう？ ・ フォトランゲージ：グループ毎に「地球家族」の写真をみて、豊かだと思う順番を話し合っ決め、その理由も発表する。 ・ ラオスと日本の比較(資料からのデータ、現地での情報)から豊かさの視点を考える。 ・ 豊かな暮らしに必要なもの(こと)を考え、グループ毎に発表する。	「地球家族」からの5カ国の写真 6 セット 模造紙 6 枚 ワークシート
	16	○ラオスからのメッセージ ～自分の夢に向かって～ ・ 15 年後の自分の名刺を作って、自己紹介をする。 ・ ラオスで働く協力隊員やNGOの方々のメッセージを聴いて、心に残った言葉を書く。 ・ グループ内で「働く」の派生図をつくる。	ラオスで撮ったインタビュービデオ 名刺用紙 模造紙 付箋紙 (派生図) ワークシート
成 果	先年度から、総合学習で国際理解教育の計画をしていたため、テーマに沿った学習を計画的に進めることができた。世界の国々に興味をもち、肯定的に理解しようとする態度が育った。またラオスを身近に感じること、世界と自分たちはつながっているという意識が高まった。		
課 題	ラオスに関する内容は50分授業で実施したが、参加型の授業展開では、生徒の活動にもう少し時間をかける必要があると感じた。通常授業を 2 時間続きで実施できるようにしたい。生徒達は興味関心をもち、楽しみながら活動していたが、さらに深い学びにするためには、教材を精選し、より効果的な授業展開の工夫も考えていきたい。		
備 考			



所 属	岐阜県中津川市立落合中学校	実践者	平林 悠基 (G)
対 象	中学校 2 年生(特別支援クラス)	時間数	5時間
場 所	教室(特別支援クラス)	実践教科	英語
ねらい	1) 世界の同世代の生活や目標を知ることを通じて、自分のこれからを考えてみる 2) また 1 のことから、本クラスの生徒がより前向きに物事に取り組める心を育む 3) 本単元を通じて、英語に関心を持ち、英語の総合的スキルを高める		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1 時間	<b>【導入】世界ってどんなところ？ガーナってどんな国？</b> ・ アクティビティ① アフリカや発展途上国のイメージは？ ・ ガーナの紹介 イメージしやすい生活や食の情報を中心に ・ アクティビティ② 自分のまわりと同じこと、違うこと ・ 感じたことを発表・交流 	実施者のガーナでの体験をイメージしやすいように写真や動画を利用し紹介。生徒の反応や時間を見て、渡航経験のある東ティモールやアメリカの情報も提供。
	2 時間	<b>【本題①】世界の同世代はどんな人？</b> ・ 同世代の 1 日のスケジュールや学校の様子を紹介 ・ ケース 1 ガーナの同世代は何を考えている？ ・ ケース 2 東ティモールの同世代は何を考えている？ ・ アクティビティ①自分たちと同じこと、違うこと ・ アクティビティ②なぜ同じなのか、違うのかを考えよう ・ 自分はどんな人になりたい？(次へ)	
	3 時間 4 時間	<b>【本題②】自分の目標を考えてみよう</b> ・ アクティビティ①自分のなりたい姿をまとめよう ・ まとめたものを英語にしよう。スピーチができるようにしよう 	
	5 時間	<b>【まとめ・発信】目標について同世代と交流してみよう</b> ・ アクティビティ①ALT との会話、東ティモールの子どもとのコミュニケーション ・ アクティビティ②今回を通じて感じたこと、学んだことを交流しよう	交流先は東ティモールのピティリシティ村の中学生にて。実施者のつながりで依頼。メールでのやりとりを実施予定
成 果	1) 自分の将来について、海外の同世代の情報があることでいつも以上に考えることができた 2) まわりの世界だけでなく、広い世界を知ることによって視野が広がった 3) 英語に対し以前より意欲を持って取り組む姿勢ができた		
課 題	時間が経つにつれ、効果が薄れるため定期的に海外との接点を持っていくとより効果を持続できるのではないか。海外とのメールの交流や実施者から海外の情報提供などで機会を作る		
備 考			

<b>所 属</b>	三重県 私立 海星中学・高等学校	<b>実践者</b>	吹田 沙織
<b>対 象</b>	中学校3年生	<b>時間数</b>	2時間(45分×2)
<b>場 所</b>	教室	<b>実践教科</b>	技術・家庭(家庭分野)
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利条約から子どもの人権について考える。</li> <li>・自分たちが恵まれていること、世界には、権利が守られていない子どもがいることに気づく。</li> <li>・世界の子どもたちのために自分たちには何ができるかを考える。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備 考</b>
	0	<b>【世界のことに興味を持つ】</b> 事前に課題として「世界の子どもたちについて興味・関心のあること」を調べ、レポートにまとめる。	
	1	<b>【世界の子どもの置かれている現状を知る】</b> ①アイスブレーキング「子どもと大人どっちがいい？」 ・自分なら子どもと大人のどちらの立場がいいか考える。 ②国や世界には子どもを守る法律や条約があることを知る。 ・児童憲章、児童福祉法、子どもの権利条約 (5～6人のグループに分かれる。) ③子どもの権利条約とは？ ・子どもの権利条約 40 条分の項目をペアで交互に読んで確認。 ・自分たちの生活に必要なと思う項目を選ぶ。 ・自分たちの人権は守られていることに気付く。 ・子どもの権利条約の存在意義を知る。 ④世界の子どもについて知る。 ・グループで、調べた世界の子どもについての情報を共有する。 ・ふせんに書いて、カテゴリー分けし、発表。	ポップコーン方式で発表          KJ 法
	2	<b>【現状を改善するために、自分たちには何ができるかを考える】</b> ①課題で調べてきた内容をまとめたプリントを配布、確認。 ・豊かで恵まれている国もあれば、貧困に苦しんでいる国があることを知る。 ②子どもの人権を守るためにできることを考える。 ・自分たちが調べた中で、子どもの人権が守られていないものを1つ選び、現状を改善するためにはどうしたらよいかを話し合う。 ・さらに、改善するために自分たちには何ができるかを考える。 ③まとめ ・支援する方法を紹介する。 ・一人一人が行動することで、変えられる力があることを知る。	派生図
<b>成 果</b>	生徒たちは、事前に調べ学習をしていたことで、多少なりとも個々に世界の子どもに対して興味と知識を持って、授業に参加することができていた。初めは、遠い国の話のような感覚で取り組んでいたが、自分が関われることを考えたことで、自分も世界の一員であることを自覚できた。		
<b>課 題</b>	子どもたちが考えを書き出すまでに、こちらの予想よりも時間がかかり、時間に余裕があれば、もっとおもしろい意見が出たかなと思う。自分たちにできることが、募金以外にも方法があることを伝えたかったが、子どもたちの意見を見ていて、対応できないものもあり、私自身の調べが足りなかった。		
<b>備 考</b>			

# 脱・貧根！ ～貧困の根を絶つには～

29  
E

所 属	三重県桑名市立光陵中学校	実践者	岩花 亜紀 (G)
対 象	中学3年生	時間数	4時間×6クラス
場 所	体育館、教室	実践教科	総合、道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界に興味を持ち、他国を肯定的に理解する。</li> <li>・ガーナを通して、世界が抱えている問題を知り、貧困問題について考える。</li> <li>・問題を解決するために、日本が行っている開発援助を知る。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<p>「ガーナに行ってみたらホントはこんなトコだった?」(体育館にて6クラス対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナを肯定的に知る</li> <li>・他国の文化や習慣を尊重する</li> </ul> <p>①アフリカについて知っていることやイメージを交流する。</p> <p>②パワーポイントを使って、ガーナクイズを行う。多くの写真や、頭に荷物を載せたり、カカオの香りを嗅いだり、ガーナ産チョコレートの試食などを行うことで、より身近にガーナを感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自作パワーポイント</li> <li>・ダンボール(約 3kg)</li> <li>・ガーナ産チョコレート</li> <li>・ローストしたカカオ豆</li> </ul>
	2	<p>「ガーナで出会った女の子」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナの農村部の現状を知る</li> <li>・世界の就学率を知り、学校に行けない原因を考える</li> </ul> <p>①女の子だけが写っている写真を見せて、生活環境を想像する。</p> <p>②女の子の家族が営む農場の写真を見て、ガーナの農村部の現状を知る。</p> <p>←大規模農場だが、女の子は学校に行けていない</p> <p>③世界の就学状況を、データ資料を見て知る。4カ国4人の子どもの現状が載っている資料を読んで、グループで交流する。</p> <p>④学校に行けない理由を、ブレーンストーミング方式で模造紙に書き出す。その後、他のグループの模造紙を見て交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修で撮った写真</li> <li>・『世界の子どもデータ』(ユニセフ)</li> <li>・『世界の就学率』(FREE THE CHILDREN)</li> <li>・『世界の子どもたち』(絵本:もったいないばあさん 考えよう世界のこと)</li> </ul>
	3	<p>「貧困はどこから?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一度貧困に陥ると抜け出せなくなるという問題の循環図を考え、その問題の構造を発見する</li> <li>・問題の悪循環から脱するための手だてを考える</li> </ul> <p>①貧困カードを読んで、貧困の輪を作る。全体で交流する。</p> <p>②貧困の輪を断ち切る具体的な方法を考える。全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困カード(ユニセフガイドブック)</li> </ul>
	4	<p>「援助とは?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な援助のあり方や、持続可能な援助方法があることを知る</li> <li>・ガーナの発展を支えている日本の開発援助を知り、自分にできることを考える</li> </ul> <p>①ワークシートの吹き出しを考え、持続可能な援助のあり方を知る。</p> <p>②ガーナの統計データを見て、援助によってガーナが発展してきていることを知り、日本の援助の様子を写真を通して学ぶ。</p> <p>③青年海外協力隊員の生の声を聞いて、自分に出来ることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『魚のいない川と魚のとおり方』『援助のはしご』(教師海外研修ワークシート)</li> <li>・『ODA 国別データブック』(外務省)</li> <li>・海外研修で撮った動画や写真</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちはこれまで、社会科やメディアで漠然と知っていたことを、今回の授業で写真や資料を通してより深く知り、貧困問題について考えることができた。</li> <li>・世界に関心を持った生徒や、青年海外協力隊に興味を示す生徒がいた。</li> </ul>		
課 題	プログラム内容を選定し、最後の振り返りに時間をかけることが必要だった。		
備 考	この実践とは別で同時期に、中学3年英語の授業で黒人差別の歴史を学ぶ際、ガーナで訪れたケープコースト城の話をして、奴隷貿易の歴史を伝えた。		

# 「ガーナの今」と「名古屋の未来」

30  
E

所 属	名古屋市立丸の内中学校	実践者	河村 有紀 (G)
対 象	中学3年生	時間数	6時間
場 所	ランチルーム、教室	実践教科	総合的な学習の時間、英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナの人々やその生活に興味をもち、自分たちとの同一性・多様性を肯定的にとらえる。</li> <li>・ガーナで活躍する日本人の活動とその課題を知り、持続可能な支援の在り方を考える。</li> <li>・自らが生活する地域の良さと課題を考え、よりよい未来を主体的に築くための生き方を考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>【こんなところに河村先生！ in ガーナ】</b> ・班(4人1組)でガーナクイズ(生活・食べ物・学校・服装)に答える。 ・ガーナから持ち帰ったもの(楽器・本・お金・服など)に触れる。	○スライドショー 実物教材
	2	<b>【ガーナと日本 あっていい違いといけない違い】</b> ・班ごとで付せんに「ガーナと日本に共通していること」と「違うこと」を記入し、全体で共有する。 ・「違うこと」の中で「あっていい違い」と「あってはいけない違い」に分け、気付いた事をワークシートに書く。	
	3	<b>【貧困って負のスパイラル?!】</b> アイスブレーキング ～これがなかったら生きていけない!～ ・ガーナの課題を知り、貧困問題が根底にあることを知る。 ・「貧困の輪」の活動から、貧困は負の連鎖であることに気付く。 ・連鎖を断ち切るための持続可能な手立てを付せんに書く。	○スライドショー 「貧困の輪」カード ユニセフの HP
	4	<b>【ガーナの人々に温度計を届けたい!】</b> アイスブレーキング ～ガーナへのお土産にするならこれ!～ ・ガーナで活躍する日本人の活動とその課題を知り、自分たちならどのような支援をするのか考え、提案する。 ・教師海外研修チームが行った支援を知り、話し合う。 ・「支援」に大切なことを話し合い、ランキング形式で発表する。	○スライドショー JICA の HP
	5・6	<b>【10年後の「理想の名古屋」を自分たちの手で!】</b> アイスブレーキング ～名古屋名物と言えば?～ ・自分たちが住んでいる地域(名古屋市)の良さと課題を挙げる。 ・「理想の名古屋」を考え、その実現に向けて、自分たちにできることを話し合う。 ・「理想の名古屋」を絵の形で表現し、発表する。	○名古屋市の HP
成 果	写真や実物に触れたり、教師の話を聞いたりすることで、ガーナに親近感をもち、多様な価値観を尊重することができるようになった。支援は持続可能であることが大切だと気付き、自分たちができる支援を考えることができた。地域の良さと課題を再認識することで郷土愛が深まった。		
課 題	ガーナへの持続可能な支援の方法を考えることができたものの、自分たちが住む地域の未来を築くために必要な支援や生き方を考える活動が不十分であった。遠い国の話にとどまらず、自分たちのこととして捉えられるように、今後も継続して実践する必要がある。		
備 考	実際に見て、歩いて、触れて、味わって、交流してきた人の話は伝わりやすいと感じた。		

# 他人のため、世界のために自分の力を使えるか

31  
B

所 属	愛知県田原市立赤羽根中学校	実践者	鈴木 康弘 (L)
対 象	中学校3年生	時間数	12時間
場 所	教室、コンピュータ室	実践教科	社会科
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際問題を自分事としてとらえ、支援や国際協力に賛同したり、参加したりしようすることができる。</li> <li>・国際問題が存在することや、その解決に向けての支援・国際協力の現状を理解することができる。</li> <li>・国際問題の解決のために何ができるかについて、さまざまな視点から考えることができる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1～3	<p>○活動 ★資料、情報先 ◆手法</p> <p>『ウェイトピッカー(WP)と出会う』</p> <p>OWP の少女マニカに関する動画を見て、感想を共有する。</p> <p>★ラオスの少女の写真 ★フジテレビ系列『土曜プレミアム』(2005 年)</p> <p>○WP について、インターネットを使って国や人数、収入などの基本的な情報を調べ、情報を共有する。</p> <p>★インターネット ◆ブレインストーミング法</p>	
	4～7	<p>『WP について考える』</p> <p>OWP について詳しく知りたいことを整理整頓する。</p> <p>◆KJ法(カード式整理法)</p> <p>OWP について、インターネットを使ったり、聞き取り調査をしたりして調べ、情報を共有する。</p> <p>★JICAホームページ、なごや地球ひろば ◆ブレインストーミング法</p> <p>○WP が「社会の役割として位置づけられること」について、どう思うかを話し合う。</p>	
	8～10	<p>『支援・国際協力の現場や人と出会う』</p> <p>ONGOや青年海外協力隊などの支援の動画を見て、それらの活動のよさを考え、共有する。</p> <p>★教師海外研修(ラオス)で撮影した青年海外協力隊の方のビデオメッセージ</p> <p>★NHK for school ★国連WFP忍足兼盛さん(NHK「プロフェッショナル」)</p> <p>○興味のある国際協力について調べ、B4の用紙にまとめる。</p> <p>◆ブレインストーミング法 ★インターネット</p>	
	11～12	<p>『自分には何ができるか考える』</p> <p>○「自分たちにできること」を考え、共有し、グループごとにまとめる。</p> <p>◆ランキング</p>	
成 果	<p>友だちから学ぼうという意欲を育むことができた。また、「WPの少女」や多くの国際協力、支援者の実際の言葉や生き方を紹介したことで、国際問題を自分に関係あることとしてとらえさせることができた。他人のことを助けたりする仕事やそれに携わる人の素晴らしさを感じさせることができた。</p>		
課 題	<p>グループ活動では、生徒が考え、その考えを共有する時間を十分に設けることができなかった。生徒の様子をよくとらえ、余裕をもった計画をしたい。また、国際協力を身近に感じさせたり、深く調べさせたりするためには、支援している方や機関との連携が不可欠であると感じた。</p>		
備 考			

所 属	愛知県立常滑高等学校	実践者	榊原 麻起子 (L)
対 象	高校1年生	時間数	3時間(50分×3)
場 所	視聴覚教室	実践教科	ホームルーム
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラオスの人々、ラオスという国と肯定的に出会う。</li> <li>・ ラオスの人たちの大切なもの、しあわせを通して、夢を叶えるために必要なものを考える。</li> <li>・ 世界の中の自分に気づき、自分の未来について考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	～ ラオスと肯定的に出会う ～ ① アイスブレイキング(自己紹介 “3つのわたし、1つはうそ！”) ② ラオス〇×クイズ ③ ラオスで私が学んだこと、感じたこと、気づいたこと ④ ラオスのおみやげ試食会	A4 用紙、ペン 写真 ラオスの国旗 資料 AIA フレンドシップ教材
	2	～ 大切なもの・しあわせとは？夢をかなえるために ～ ① アイスブレイキング(自己紹介 “私の夢” ) 小さい頃の夢・これから挑戦したいこと ② クイズ ラオス人の大切なもの、しあわせを感じる時 日本人高校生のデータと比べて、クイズ形式で考える →データを比べて気づくことをポップコーン形式で発表 ③ 大切なもの・しあわせってなんだろう？ ☆なりきり自己紹介	PPT 資料 A4 用紙 “ラオス人の大切なもの・しあわせ”写真6人分
	3	～ わたしの未来のつくり方 ～ ① 前回のふり返し ② 夢を叶えるために必要なもの ☆派生図・ブレインストーミング →グループで作成した後、ギャラリー形式でシェア ③ ラオスで活躍する日本人 ラオスで教育・医療・環境・福祉の分野でラオス人のために働いている日本人のメッセージを紹介 →何が一番自分の心に響いたか、グループでシェア ④ これからの私 ☆ タイムライン ⑤ 感想～私の未来をつくるためにすべきこと	模造紙、ペン 映像 A4 用紙 ワークシート
成 果	ラオスの人たちの大切なものを聞いて、家族の大切さ・教育の大切さに気づいた生徒が多く見られた。また、ラオスで活躍している日本人の姿は彼らのロール・モデルとなり、自分の将来について考える機会になったようである。普段友達とこういう形で意見を交換するような機会がほとんどないので、お互いを知るうえでも貴重な活動であった。		
課 題	3日間に分けて実施したので、流れが途切れてしまい、その分時間がかかってしまった。もう少し内容を深めて、生徒に考えさせる機会が与えられるとよかった。今回は自分の未来(進路)について考える機会としたが、そこから世界の子供たちの置かれている現状、未来についても考える活動に発展させたい。		
備 考	担任クラスで実施した。クラスに11月に外務省の JENESYS2.0 プログラムでラオスに派遣された生徒4名がいるため、その生徒たちの帰国報告を兼ねて、ラオスについてのクイズを作ったり、ラオスで自分が感じたことなどを話してもらうなどして参加してもらい、他の生徒に彼らの生の声を聞かせる機会にした。		




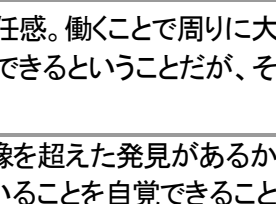
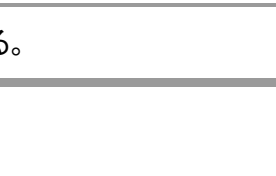


所 属	愛知県立南陽高等学校	実践者	林 雄一
対 象	2年総合探究入門受講者 12名	時間数	3時間(50分×3)
場 所	1棟3階プレゼンテーションルーム	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスに肯定的に出会い、日本以外の国や途上国を身近に感じることができる。</li> <li>・ラオス人と日本人の共通点、相違点を見つけ、それもアリ！と思える。</li> <li>・国際協力を理解し、自分にできることを真剣に考えることができる。</li> <li>・自己肯定感を持てるようになる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	～ 国際協力 ODA、ラオスを知る ～ 1 アイスブレーキング 4人×3グループに席替え 自己紹介「一番行ってみたい国は？」 2 「国際協力って何だろう？ハンドブック」を読む。 3 ラオス紹介パワーポイント、ラオスクイズ	・A4用紙、マーカー ・「国際協力って何だろう？」ハンドブック(ブルータスNo.7 87付録) ・パワーポイント ・ラオスはどこ？世界地図
	2	～ ラオス人を知る ～ 1 アイスブレーキング 4人×3グループに席替え 自己紹介「私の大切なもの」 2 ラオス人なりきり自己紹介♪ ※年齢は？家族構成は？仕事は？人物になりきって話をする。 ※1, 大切なもの、2, 幸せを感じる時を盛り込むこと。 ※プロジェクターに写真を映し、答え合わせをする。 3 日本人と比較してみよう！！ ※100人の日本人とラオス人の考える大切なものを公開。 ※ラオスの「家族」にまつわるエピソードを紹介。 「4つの対比表」で、日本と比較する。 ※ラオスの良いところ、日本の良いところ、ラオスと日本の共通点、 相違点を記入。 ※ギャラリー方式で共有。	・A4用紙、マーカー ・ラオス人なりきり自己紹介カード(4人×3枚) ・ワークシート ・パワーポイント  ・パワーポイント  ・模造紙 ・マーカー
	3	～ 私たちにできること 不発弾問題を考える ～ 1 「クイズ これは何でしょう？」 答え・・・クラスター爆弾 ※不発弾の被害VTRを観る。 2 派生図「もし日本に不発弾が大量に埋まっていたら・・・」 3 ラオスの不発弾問題、日本国内の不発弾問題を知る ※沖縄の不発弾に関するニュースを知る。 4 UXOrao の活動を知る。 5 4月からの授業を振り返って、「世界に対して、地球に対して、私たちができることは何だろうか？」を考える。(今・10年後) 6 感想を発表	・パワーポイント ・ラオスの不発弾被害DVD (from UXOrao) ・模造紙、マーカー ・沖縄の不発弾に関するニュースプリント ・「私ができることは何だろうか？(今・10年後)」プリント
成 果	ラオスと肯定的に出会い、異文化に興味を持つことができた。また、日本で当たり前に行っていることが、世界では決して当たり前では無いことに気づくことができた。一方で、日本と全く違う文化、生活感を持った人でも、我々と同じような価値観(家族を大切にする等)を持っていることを知り、お互いに協力し合うことの大切さを実感することができた。		
課 題	生徒の学習意欲・問題意識を高めることはできたが、今回のねらいの一つである「自分にできることを真剣に考える」という点では、改善の余地がある。今の自分たちを振り返らせ、現地で生き生きと生活している人々や、青年海外協力隊員の紹介などを通じて、生徒が主体的に考え、「もっと知りたい」、「行動したい」というような積極的な気持ちが生まれる授業を作ることを今後の課題としたい。		
備 考	現地で収集したラオスグッズを教室に展示。生徒は自由に見て、触れて OK。		

# 高校生によるフェアトレーディングプロジェクト

34  
E



所 属	大同大学大同高等学校		実践者	伊藤 佳貴 (G)
対 象	高校2年生		時間数	7時間
場 所	教室、大会議室、ほか		実践教科	英語、総合的な学習の時間
ねらい	・リサイクル素材で作られたポーチから「今日のガーナが抱える問題」を知る。 ・ガーナの聾学校との交流活動を通して、世界とつながることの喜びや感動を体感する。 ・活動全体を通して世界の様々な問題に気づき、そこから「私にできること」を見出し、実行する。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	「ガーナと日本のつながりは？」 ・写真や動画、実物教材を使って、ガーナを紹介する。 ・そこから、ガーナと日本の共通点や相違点を見つける。		写真、動画、実物教材 (ガーナで購入した品)
	2	「世界で何が起こっているの？」 ・新・貿易ゲームを使って、世界の経済活動を疑似体感する。 ・ゲームを通して世界における様々な問題に気づく。		ゲーム道具一式
	3	「フェアトレーディングに挑戦しよう！」 ①「このポーチ、どこから来たの？」 ・ポーチを手にとりながら、ポーチの出来た背景を想像する。 ・ポーチに使われている材料から、ガーナの課題を考える。		実物教材(ポーチ)
	4	②「ポーチの適正な価格を決めよう！」 ・材料費やガーナの物価を考慮しながら、適正な価格を決める。		ポーチ200個
	5	③「文化祭でポーチを販売しよう！」 ・9月27日の文化祭にて企画「ガーナを体験しよう」を開催する。 ・ポーチ販売に加えて、「籠載せ体験」「ガーナ料理体験」を実施する。		料理体験:フフ、フライ ドプランテーション 籠載せ体験:たらい
	6	「ガーナの友だちに手話メッセージを送ろう！」 ポーチを作ったガーナの友だちに向けて、手話でメッセージを送るために、英語の手話を学び、ビデオ収録して送る。		手話講師:千原邦彦氏 (本校卒業生)
	7	「私にできる国際協力」 このプログラムでの経験を活かして、私たちがすべき国際協力の在り方を考える。また、それに向けて「私ができることは何か」を考え、模造紙にまとめる。		
成 果	実際にフェアトレーディングを体験することによって、多くの生徒に「自分にも国際協力ができた」という自信が生まれた。また様々な活動を通して、多様な個性や意見に対して寛容な姿勢で向き合うことのできる生徒が増えた。			
課 題	英語教育の学習活動の中に、こうした参加型学習の手法を取り入れていきたい。また、ガーナの学校との交流については、今年度限りのものとせず、今後も継続的に取り組んでいけるように具体的な手立てを検討したい。			
備 考	上記の実践に加えて、JICAガーナICT分科会の協力によるガーナの学校とスカイプを使った交流授業の実践を計画している。(平成27年2月13日実施予定)			

所 属	三重県立朝明高等学校	実践者	重田 優子
対 象	高校2年生 ビジネスコースの生徒80人	時間数	50分×16コマ
場 所	教室・図書館・コンピュータ室	実践教科	ビジネス基礎
ねらい	<p>働くことについて学び、社会に出たときの自分の働き方に活かす。</p> <p>① 自分の働き方が他者に WIN WIN の関係で成立するように、世界の現状を把握した自国の文化に根付いた仕事も把握する。</p> <p>② 自分の働き方が、地球の持続可能になっているか、他の人の生活に良い影響を与えているか考えられる人になる。</p>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	0	CSRについて(企業の立場で考える) 1. CSRとは? 2. なぜ、CSRを学ばなくてはいけないのか? 3. CSRの内容(ISO26000から) 4. 企業理念と戦略としてのCSR 5. 働く意味を考える 6. 事例紹介	 1. フェアトレードのPOP 広告
	1	フェアトレードについて(消費者の立場で考える) フェアトレードについて学習し、各自フェアトレード商品を探し、購入し、POP 広告にして紹介する。	
	2	インターンシップを経験して(労働者の立場で考える) 5日間のインターンシップを経験した感想発表	 3. 新聞の切り抜きをしているところ
	3	1か月の新聞から働くことに関する記事を抽出する 各自、「働くこと」の記事を見つける	
	4	記載記事を模造紙に書き出し、話し合う 選んだ記事をテーマごとに分け発表する	 4. 新聞記事をテーマごとに仕分けしているところ
	5	本の抽選・説明・図書館に借りに行く 誰がどの偉人を担当するかくじを引く	
	6	偉人から学ぶ 偉人の業績、今でも役に立っていること、何のためにその仕事をしていたか考える	
	7	働くとはどういうことか① 働くことの意義・定義	
	8	働くとはどういうことか② 労働の子供(水汲み・カカオ・ゴミ山)・野球選手・サッカー選手・クジラ漁を生業とする人	
	9	働くとはどういうことか③ 働くにあたり必要な力とは	
	10	CSR プレイ	
	11	まとめ・自分の意見を発表	
成 果	<p>働くことに対して現実性と覚悟ができたと考える。また、学生と大きく違う点は責任感。働くことで周りに大きく影響を与えるということは、自分の意識や行動に責任が伴うということが自覚できるということだが、その成果は今後の授業で展開する。</p>		
課 題	<p>まだ、最後まで終了していないので、今後予想通りの展開になるかまたは、想像を超えた発見があるかわからないが、自分の働き方が、必ず誰かに影響を与え、循環の一部になっていることを自覚できることが課題である。よって、働く以前に仕事の選択からこの問題は考えていかなければならないと理解させていきたい。</p>		
備 考	<p>2月の検定受験のため、この授業は一時休止中であるが、検定後から、再開する。</p>		

# マニフェストを作ろう ～政治の大切さを知ろう～

36  
H

所 属	愛知県立南陽高等学校		実践者	橋口 幸三
対 象	高校3年生(1クラス 12 名)		時間数	2時間 (50 分×2)
場 所	3年3組教室		実践教科	現代社会
ねらい	・現在世界が抱えている諸問題は、自分たちの身近にあるということを理解させ、身近にある様々な問題をどのように解決できるのかを主体的に考えさせる。 ・政治の大切さや重要性を学び、自分と他者がどのようにつながっているかを知り、一人ひとりがよりよい未来を作る「主役」であるという意識を持たせる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1 限目	【イントロダクション・班分け】 ・今回の授業についての大まかな説明および班分け (前段階として、各班がそれぞれ「政党」としてマニフェストを作り、実際にそれを発表し、投票するということを予め伝えている。) 【アイスブレーキング】 ・自己紹介…①あなたはどんな人か ②セールスポイント ③今熱中していること ④今回の授業への意気込み 【今世界で起こっている問題とは何か】 ・kJ 法を用いて、各班書き出していく。 ・その後、各班が別の2班を回り、共感できるものに星印をつける。 【自分たちの身近で起こっている問題とは何か】 ・先の「今世界で起こっている問題とは何か」を踏まえて、それらが自分たちの身近にどのように起こっているかを考えていく。ここでは派生図を用いる。 ・その後、各班が別の2班を回り、共感できるものに星印をつける。 【政党名を考え、マニフェストを作る】 ・実際にマニフェスト作りに取りかかる。 【感想・次回に向けて】 ・本時の感想を書かせ、各班メンバー内で発表し合い、次回の流れを説明する。		・班は4名×3班  ・A4用紙、マーカー  ・模造紙、付箋、マーカー  ・模造紙、付箋、マーカー  ・模造紙、マーカー  ・A4用紙、マーカー
	2 限目	【前回のおさらい・アイスブレーキング】 ・前回のおさらいをし、実際の政党のマニフェストのコピーを見せ、ヒントを与える。 ・アイスブレーキングは、「自分は～が長所で～が短所な人間です」という自己紹介を行う。 【マニフェスト作り・マニフェストの発表】 ・マニフェストを完成させ、発表する。 【実際に投票を行う】 ・どの「政党」が良いマニフェストかを実際に投票して示す。 【振り返りと感想・まとめ】 ・今回の一連の授業を振り返り、感想を書かせ、各班メンバー内で発表し合う。 ・この授業を通じて、政治というものがいかに大切かつ重要であり、政治を行うことは大変なものであることを伝える。 ・これからよりよい未来になるかどうかは、一人ひとりにかかっているということも合わせて伝える。		・A4用紙、マーカー ・マニフェストはダウンロードしたものを使用する。  ・模造紙、マーカー  ・投票用紙は手作りの簡単なものを使用する。  ・A4用紙、マーカー
成 果	・各班が協力して作業を行うことができ、苦労して作り上げたことでの達成感をもたらすことができた。 ・今回の授業を通じて、世界は実は自分たちの身近にあるということや政治の大切さを認識することができた。 ・自分と他者および社会とのつながりを感じる事ができた。			
課 題	・短時間にマニフェストを作らなければならなかったため、生徒は苦労していた。 ・班数が少なかったため、多様性に欠けた。 ・生徒の能力が高いというわけではないため、班での話し合いや作業が素早くできたわけではなく、マニフェストの内容も少し薄いものとなってしまった。			
備 考				

所 属	愛知県立横須賀高等学校	実践者	向井 昌紀
対 象	高校3年生 40 名	時間数	7時間
場 所	社会科室(定員 80 名の教室)	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の格差について知る。</li> <li>・異文化に触れ合ったとき、どう感じるのかを体験し考える。</li> <li>・「異文化理解」とは「他者理解」であることを確認し、他者への思いやりを育成する。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	アイスブレイキング「身体でアンケート」 ワークショップ①「世界がもし 100 人の村だったら」 ＜世界の富は誰が持ってるの？＞ ＜大陸ごとに分かれてみよう＞ ランダムで配布した役割カードで貧富の差を体験させる。	世界がもし 100 人の村 だったら (開発教育協会)
	2	ワークショップ②「バーンガ」 各班で違うルールของเกมを行い、言葉が通じない状況で何を感じ、どう行動するかを考える。併せて、文化の伝承・衰退についての変化を体験する。	トランプゲーム 
	3	ワークショップ③「サモアの教科書について考えよう」 実践 サモアの数学・理科の教科書から、日本との違いを知る。 理数科教育におけるサモアの抱える問題点を考える。	サモアの教科書
	4	ワークショップ③「サモアの教科書について考えよう」 反省 自分がプロジェクトに参加すると仮定して、どのようなプログラムでその問題点を改善していくか意見を出し合い、思考する。 ワークショップ④「貿易ゲーム」 説明	新・貿易ゲーム (開発教育協会)
	5	ワークショップ④「貿易ゲーム」 実践 6 グループに分かれて、貿易ゲーム(国作り)を行う。 国作りをしながら、貧富の格差が広がっていく様子を体験する。	
	6	ワークショップ④「貿易ゲーム」 反省 自国の紹介と実践時に起きた現象や、自分たちの行動を振り返る。	
	7	JOCV 活動報告 青年海外協力隊(サモア・理数科教師)の活動内容を紹介。 身近に目を向け、異文化理解を他者理解に発展させる。	PPT わたしたちの地球と未来「サモア独立国」 (愛知県国際交流協会)
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は体験し、その後に自らの行動を振り返ることによって、ハッと気づかされる場面が多数あったようであった。他者への配慮を考えながら行動することの大切さを学ぶことができた。</li> <li>・異文化という大きな差でなく、身近な友人の性格や考え方の違いを相互理解する機会となった。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続した時間を設けるなど、もう少しゆっくりと振り返りをする時間があったらよかった。</li> <li>・プロジェクトを考える場面では PCM を考慮し、じっくり時間をかけて練り上げてよかった。</li> <li>・ファシリテーターとして、準備や進行など今以上に技術を向上させる必要があると感じた。</li> </ul>		
備 考	総合の時間「異文化理解」の実施は今年度で3年目。		

所 属	名古屋市立名東高等学校	実践者	新倉 春美 (L)
対 象	国際英語科 3 年の時事英語選択者 8 名	時間数	12 時間
場 所	特 LL 教室・展開2教室	実践教科	英語(時事英語)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの現状を多角的な視点から理解し、多様な開発課題に気付く。</li> <li>・持続可能な開発を実行していくためのプロセスを考える。</li> <li>・英語でのコミュニケーション能力を伸ばし、論理的に自らの考えを伝える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	0	<b>導入</b> ラオスってどんな国？(教師海外研修の報告・Q&A)	パワーポイント
	1	<b>ゴミ問題</b> ラオスのゴミ処理の方法を知り、その方法を用いている理由を考える。①ラオスに関する TF クイズ②ゴミに関する写真を使ったフォトランゲージ③ゴミ処理の背景を知るための資料を読み学んだことを共有④ラオスのゴミ処理の利点と欠点を対比表にまとめる	パワーポイント・写真・ワークシート・模造紙・付箋紙
	2	<b>不発弾</b> 不発弾の脅威とそれに対する取り組みを知り、どのように人々の命を守るのかを考える。①UXO のフィルムを見て感想を共有②UXO-Lao のアニュアルレポートを分担して読み内容を共有③2 種類の UXO 啓発ポスターを見て消されている文言を推測する	パワーポイント・UXO-Lao 提供の不発弾のフィルム、アニュアルレポート、啓発ポスター2 種(加工済)
	3	<b>医療</b> ラオスの病院の現状を知り、支援者の役割を考える。①病院の写真を使ったフォトランゲージ②ラオスの医療の利点と欠点を対比表にまとめる③自分が JICA ボラだったという想定で改善策を考える	パワーポイント・模造紙・付箋紙・A4 紙
	4	<b>教育</b> 教育現場に必要なことを整理し、ラオスの教育の改善策を考える。①教育の場をポップコーン形式で出し合う②教育に必要なもの・ことをリスト化する③ラオスの教育の現状を紹介④ラオスの教育をもっと良くするための To-Do リストをつくる	パワーポイント・黒板・模造紙
	5	<b>開発課題の整理</b> ①ラオスの開発課題を KJ 法でまとめる②自分が取り組みたいカテゴリーを決める	模造紙・付箋紙
	6~10	<b>プレゼン準備</b> ビジョンの設定・戦略と行動計画作成 Economy, UXO, Medical Services, Education の4つのグループに分かれ、プレゼン準備を行う	パブリックリソースセンター編『第2 版 NPO マネジメント入門』を参照 パワーポイント・ネット環境
	11	<b>プレゼン</b> 戦略と行動計画の発表 4つのグループからプレゼンをし、お互いに評価・質問・コメントをした。	パワーポイント・ワークシート
	12	<b>振り返り</b> 自分たちのプレゼンをビデオで見て授業全体を振り返る。	録画したデータ
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なインプットは押さえた上で、アウトプットの多い授業を展開することができた。</li> <li>・開発課題を整理する段階で「経済」という新たなカテゴリーを生徒が自ら生み出し、ビジョンやアクションを考えることができた。提供された内容だけでなく、新たな課題に気づくことができた。</li> </ul>		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンの振り返りを行うだけでなく、論理的に自らの考えを伝える力を伸ばすために、生徒が自分たちのプレゼンを改善する機会を設けるべきだった。アウトプットの質にもう少しこだわる。</li> <li>・提供する資料は生徒が扱いやすいようにもう少し加工しておくべきだったかもしれない。</li> </ul>		
備 考			

所 属	静岡県立島田高等学校		実践者	戸塚 康博 (G)
対 象	高校生		時間数	3時間(65 分×3) + α
場 所	同窓会館研修室／教室／台湾		実践教科	教養講座／世界史／修学旅行
ねらい	・世界を知る ・世界で活躍する日本人を知る ・自分と世界がつながる進路を考える			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【ガーナで活躍する日本人】 ガーナ研修帰国報告をし、世界とつながる楽しさを伝えた ①フォトランゲージ…ガーナ人と日本人の写真を見て、会話を予想 ②あるなしクイズ…日本とガーナの写真を見て「あるなし」を見つける →国際協力の必要性に気づく→世界に貢献できることを知る ③世界とつながろう…できることをしよう→温度計を送った→君たちにできることは何だろう ④進路を考えよう…青年海外協力隊の要請一覧を見て、どんな仕事が必要とされているのかを考えた		写真・動画 実物教材 青年海外協力隊の職種要請一覧 PARTNER 国際協力の求人情報
	2	【新・貿易ゲーム】 4タイプの国(先進工業国・新興国・資源保有国・開発途上国)に分かれ、世界経済の動きを疑似体験した ①ルール説明 ②ゲーム実施 ③結果発表、ふりかえり…お互いの立場の違いを理解し、国際協力の必要性を知った		開発教育協会 『新・貿易ゲーム』
	3	【世界がもし 40 人のクラスだったら】 ①大陸ごとに分かれよう…5大陸ごとに分かれて、人口分布を疑似体験した ②世界の富の不均衡…ジュースやクッキーを分配して、世界の富の不均衡を疑似体験した ③世界がもし 100 人の村だったら たべもの編…読み合わせをし、疑問点をあげ、解決方法についてグループで話し合った		『世界がもし 100 人の村だったら』
	+ α	【台湾への修学旅行】 現地の高校生と交流し、世界とのつながりを体験した 台湾の良さ、日本の良さを派生図に書いた		修学旅行
成 果	機会があるごと、温度計がガーナに届いたこと、ジャムが完成したことなどを小出しにすることで、世界とつながっていることを意識させた。また生徒は実際に海外修学旅行で現地人と交流し、世界とのつながりを体験した。自分はどんな分野で世界とつながるかを考え始めている。			
課 題	情報を一方的に与えるばかりの授業になりがちなので、参加型の手法を取り入れ、情報や思考を共有し、さらに体で感じる授業を工夫していきたい。			
備 考	「聞いたことは忘れる。見たことは覚えている。経験したことは応用が利く。」という研修で学んだ言葉を胸に刻み、実践していく。			




# 黄柳野高校 フェアトレードチームの活動

40  
G

所 属	黄柳野高校	実践者	稜保 尚代
対 象	高校生	時間数	13 時間
場 所	教 室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェアトレード商品販売などの活動と関連付け、支援先であり、生産者である途上国の人々について考え、また自分と世界、フェアトレードについて考える。</li> <li>・その考えを今後のフェアトレードの活動に活かしていく。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備 考
	1	<b>『学園祭でフェアトレード商品を販売しよう』</b> ・フェアトレード商品の売り上げをエボラ出血熱対策の支援金に。	
	2～4	<b>a.『エボラ出血熱ってどんな病気？』</b> ・インターネットで調べてみよう。 <b>b.『アフリカの人々にエボラについて、暮らしについて聞いてみよう。』</b> ・書き出したアフリカのイメージをもとに質問を作成。 ・失礼のない質問の仕方を工夫。 <b>c.『中部アフリカンフェスタへの参加とまとめ』</b> ・何か国のアフリカの人々と話しができたかな。 ・予想していた答えと、異なる答え。	インターネット 白紙 (ブレインストーミング) 中部アフリカンフェスタ で出会ったアフリカの方々。 模造紙
	5～6	<b>a.『貧困について考えよう』</b> ・[ムハンマドさん一家を救え] <b>b.『豊かさについて考えよう』</b> ・[山田さんとラーマンさん一家の暮らし。豊かさの 8 つの条件]	一般の参加者と共に 開発教育指導者研修 教材(この回のみ豊橋市 フェアトレードカフェ茶民 とのコラボ)
	7～9	<b>a.『文化の違いについて考えよう』</b> ・[レヌカの学び] ネパールにいる時、日本にいる時のレヌカさんを仕分け、その理由を出し合い、レヌカさんのエピソードと照らし合わせて途上国に持つイメージについて考えた。	開発教育協会 DEAR の 教材「レヌカの学び」
	10	<b>a.『外国人労働者について考えよう』</b> ・レヌカさんのように文化や環境に合わせられない外国人同僚がいたら？	白紙 (ポップアップ形式)
	11	<b>a.『幸せについて考えよう』</b> ・幸せだと感じるとき、幸せではないと感じるとき。を出し合いみんなの意見を比較。	付箋(KJ 法)
	12～13	<b>a.『映画 happy を観よう』</b> ・世界の人々にとっての幸せとは。フェアトレード活動に必要なことは？	DVD 感想用紙
成 果	生徒たちが発展途上国に持つイメージおよび、そのもととなるメディアの見方も変化した。人々が困っているからフェアトレード支援するという単純な形から、「幸せとは何か」を考えることで、人のために尽くすことで自分が幸せになれるという気付きができ、フェアトレード支援活動の意味を深めることができた。その他、身近にいる在日外国人との共存についても意見を出し合うことができ、異文化共生についても少し触れられた。		
課 題	2 学期より育休から職場復帰したため、学園祭準備から突入。「流れのよい」実践をすることができなかった。来年度はフェアトレードの教材研究をし、流れを意識した実践をしていきたい。本校は少人数なため、それを生かした授業にしたい。		
備 考	上記内容の他にも、フェアトレードに関する新聞記事を読み、話し合う活動もした。		

# 夢のツアーを企画しよう

41  
H

所 属	三重県教育委員会 (四日市高校国際交流アドバイザー)		実践者	長縄 美樹
対 象	県立四日市高校の 1, 2 年生 45 名 三重大学の留学生 15 名		時間数	3 時間
場 所	四日市高校 大講義室		実践教科	スーパー・グローバル・ハイスクール特別授業
ねらい	・三重大学留学生との対話やアクティビティを通じて、世界の多様性に気づくこと ・英語を使って留学生と触れ合うことで、コミュニケーションスキルを高めること			
実践内容	時間	プログラム		備 考
	10 分	【アイスブレイク①】「誕生日順に並んでみよう！」（言葉を使わずに、身振りだけで誕生日を伝えあい、1 月から 12 月まで一列に並ぶ）  （誕生日の順に 5－6 名ずつの小グループに分かれる。留学生は国・地域別に各グループに 1－2 名ずつ配置）		ファシリテーションは英語で行う
	15 分	【アイスブレイク②】「Sharing the limited resources!」（水、食料、森林、化石燃料等を色別に表す紙を使って、資源の有限性を体感するゲーム）		生物資源学部の留学生のアイデアによるゲーム
	70 分	【夢のツアーを企画・立案しよう】各グループを旅行代理店に見立て、高校生が、グループに配置された留学生の出身地を訪ねる 2 泊 3 日のツアーを企画。留学生を情報源として、その地域の魅力、訪れるべき場所、食べるもの、体験すること、移動手段などを聞き取り、模造紙一枚の旅程表にまとめる。		生徒が留学生に質問をして様々な情報を得、その土地の魅力を最大限に伝えるツアーを考案。
	30分	【なりきりプレゼン】 各グループが、旅行代理店の営業担当者になりきり、審査員(教員 5 名)に対してツアー企画を英語でプレゼン。		
	20 分	【留学生の文化紹介】審査の間、留学生の一言スピーチと文化紹介(各国の歌など)		
	10 分	【審査結果発表】(「食事が美味しそうで賞」「お値ごろ感いっぱい賞」「老人に優しいで賞」などユニークな賞が、校長から授与された。)		
	10 分	写真撮影、終りのあいさつ		
	成 果	留学生の出身国(アフガニスタン、バングラデシュ、フランス、メキシコ、インドネシア)の文化、名所・旧跡、伝統行事、食文化など、各地域の魅力をよく伝える個性豊かな 8 つのツアーが出来上がった。また、同じインドネシア国内でもバリ、スラウェシ、ジャワなど、地域ごとの多様性にも気づくことができた。英語教員以外の外国人と話すのが初めて、という生徒も多かったが、英語で外国人と触れ合う楽しさも味わうことができたようで、参加者アンケートでは全員が「期待以上に楽しめた」と評価をしていた。		
課 題	三重大学との留学生交流会は、初の試みであった。英語でのコミュニケーションスキル向上のための機会としたいという学校側からの要望もあり、英語のみを使って行ったため、ワークショップの内容自体はシンプルで分かりやすいものにしたが、次回は、生物資源学部の留学生を中心として、楽しみながら英語で地球的規模の課題を学習できるような仕掛けを考えたいと思った。			
備 考	文部科学省「スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)」の指定を受けた本校では、外部から「国際交流アドバイザー」を任用し、海外フィールドツアーや留学生交流会など、国際交流やグローバル教育の様々な取り組みを行っている。本授業はその一環として行われた。			

所 属	私立 海星中学・高等学校	実践者	小林 一憲
対 象	教員・大学生など	時間数	1回(85分)
場 所	三重県松阪庁舎	実践教科	指導者研修(初級編)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型手法を活用して、自分と周囲、また日本と海外との関係性について考える。</li> <li>・アクティビティを活用し、「よりよい進路」について学び・気づきを増やす。</li> </ul>		
実践内容	プログラム		備 考
	<p><b>1. 趣旨、ルール説明【5】</b> ⇒ 受付の際にくじを引いてもらい、席を決めておく。 →受付～開会までの間にアイスブレーキングで用いる名刺づくりをしよう。</p> <p><b>2. アイスブレーキング【12】</b>…名刺で自己紹介</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>① この夏の思い出、何か一つ挙げるとしたら??</p> <p>② 自分の、人のために発揮できる特技</p> <p>③ この研修参加の理由・期待</p> <p>→誕生月の順に自己紹介(1分30秒/人)【12】</p> </div> <div style="flex: 0.5; font-size: 3em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="flex: 1;"> <p>他者理解と自己理解。</p> </div> </div> <p><b>3. 世界とのつながりについて考える【12】</b></p> <p>部屋の中にあるもの、または今の自分の持ち物の中で、「世界とつながっているもの」をグループで出し合う。【5】</p> <p>→一番多く書き出したグループに発表してもらう。【3】</p> <p>→他にも「これは言いたい!」というものがあれば、各グループ1つずつに聞いていく。【2】</p> <p>⇒小さな空間の中でも世界と密接な繋がりが存在していることを確認する。【2】</p> <p>=「世界のことは地理的には遠いかもしれないが、他人事ではない!」</p> <p><b>4. グローバリシューについて考える【17】</b></p> <p>グローバリシューとは? →グローバル化が進んだことで今日における課題とはどのようなものがあるのかについて資料を読む。【3】</p> <p>→①何についての資料なのか。②読んでみて何がわかったか。③最も大事だと思うことは何か。の3点を自分の担当について周囲に伝える。(1分30秒/人)【9】</p> <p>→ガーナで見た・聞いた・感じた課題とそれに対する取り組み・実践の紹介。【5】</p> <p><b>5. 今日の日本が抱える課題とその取り組みについて考える【39】</b></p> <p>自分の周囲(日本、地域)について誇りに思えることと残念だと思えることを3つずつ挙げて記入する。【7】</p> <p>→互いに発表、共有する。(1分30秒/人)【8】</p> <p>→模造紙に「誇りに思えること」をより向上させるためにまずどのようなことを心掛けたいのか、また「残念だと思えること」を克服するためにまずどのような取り組みができるのかについて模造紙にまとめる。(→「～しない」ではなく「～する」という肯定的な意見という条件を出す)。【9】</p> <p>→ほかのグループではどのようなものが出たのか、回りながら見る。「これなら自分にも今すぐできる」というものに☆マークを。【7】</p> <p>→他グループを見て気づいたことを一言(1分30秒/人)で表し、共有する。【8】</p> <p>⇒私たちの周りの課題にどう向かい、共生の道を考える。また自分と世界的課題を照らしあわせ、「自分のすること、できること」について考えるきっかけにする。</p>		<p>くじ A4用紙 水性マジック</p> <p>ブレインストーミング形式 A4用紙</p> <p>資料:「今、地球で起こっている 30 の真実」「地球の数字」「日本の数字」</p> <p>模造紙 水性マジック</p>
成 果	子どもではなく対象が教員や大学生だったので、考えてもらうきっかけにはなれた。初対面の人たちばかりだったが、この機会に交流や意見交換もしてもらえた。		
課 題	1回きりなのでその後の実践や取組については各々に委ねる。 ワークの作業内容を全体に周知してもらえよう、確認作業をきちんとすることが大事。		
備 考	資料:「今、地球で起こっている 30 の真実」「地球の数字」「日本の数字」		

# 世界の貧困問題を知ろう ～路上で生きる子どもたち～

43  
D

所 属	認定 NPO 法人 アイキャン	実践者	中村 由実子
対 象	大学生～一般	時間数	90 分
場 所	アイキャン日本事務局	実践教科	ボランティア入門講座
ねらい	世界の貧困問題の例として、フィリピンの路上の子どもたちが置かれた現状を説明し、それに対する NGO の活動を紹介した上で、問題解決のために自分たちに「できること」を考えてもらう。		
実践内容	回	プログラム	備 考
	5 分	自己紹介(①氏名、②ニックネーム、③私はこんな人):アイスブレイク 1	・三つ折りにした紙に書き、紹介後三角形にして②を正面に向け、ネームプレートに。
	10 分	1. フィリピンってどんな国? 1)クイズで知ろう! フィリピンのこと:アイスブレイク 2 フィリピンの文化、歴史等に関する 3～4 択クイズ 4 問。 2)フィリピンの街の様子 マニラ首都圏で高層ビルと貧しい造りの家が共存する写真を紹介。	・発展する一方で広がる格差を視覚的に伝える。
	35 分	2. 路上の子どもたちって? 1)路上の子どもの定義 2)路上の子どもたちの暮らしと仕事 3)路上の子どもたちが抱える問題 →線路沿いの様子を動画で見て気付いたことを一人 3 つ書く。 →一人 1 つずつ発表して模造紙に貼っていく。(KJ 法) 4)路上の子どもの背景 子どもが過酷な路上に出ざるを得ない様々な理由について説明。	・イラスト ・写真 ・動画 ・付箋 1 枚につき 1 つ。 ・他の問題も補足説明。 ・子どもの談話も紹介。
	30 分	3. NGO の活動～路上の子どもの権利を守り、夢を応援するために～ 1)路上の子どもたちにもある、「権利」と「夢」 4 つの「子どもの権利」と、路上の子どもたちの将来の夢の例を紹介。 2)NGO・アイキャンの活動 先に提示した 4 つの「子どもの権利」に対応する活動を順に紹介。 3)路上の子どもにとって理想的な保護施設を描こう ・施設に入所した子どもの事例(変化)を紹介し、その必要性を説明。 ・4～5 人のグループに分かれ、どんな施設が良いか描き、発表。	・「子どもの権利条約」 ・写真や事例、子どもの声も交え、具体的に。 ・模造紙、色ペン
	10 分	4. 路上の子どもたちを応援するために…身近にある「できること」	・ボランティア等の紹介 ・終了後、アンケート
成 果	初対面の参加者も多かったが、アイスブレイクで打ち解け、グループワークでも活発に意見が出て、円滑に進めることができた。参加者からは、「フィリピンの子どもたちの現状を学び、ボランティアに対してとてもやる気になった」、「できることを増やして、子どもたちの未来に繋がるようにしたい」などの感想を頂いた。		
課 題	街頭募金やスタディツアーなど、その後の行動に繋がった参加者もいるが、アンケートでは興味を示していても、実現には至っていない人もいる。参加者と直接会えるのは最初で最後となるかもしれないため、講座で問題への理解や共感を得るだけではなく、「できること」の実践へいかに確実に繋げるかが課題。		
備 考	当日、早速「できること」を実践してもらうため、路上の子どもの保護施設建設の資金を集める街頭募金を行い、半数以上が参加した。活動前に作成してもらった呼びかけのセリフには、各自が街の人に伝えたいと思う言葉が盛り込まれており、路上の子どもへの理解や想いが深まっていると感じることができた。		